

資 料

- 資料 1 臨床心理学研究科の教員による地域支援活動一覧
- 資料 2 各講演会(研修会)資料
- 資料 3 各地域支援活動案内文
- 資料 4 各地域支援活動に対するアンケート
- 資料 5 各地域支援活動に対するアンケート結果
- 資料 6 大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート
- 資料 7 大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート結果

資料 1 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科教員による地域支援活動一覧

	教員名	活動名	年月	会場	内容	主催
1	平川忠敏	カウンセリング	2012年4月～ 毎月2回	都城「ひかり園」	障害児を持つ親のカウンセリングと 職員の指導	社会福祉法人光生会
2	平川忠敏	カウンセリング	2012年4月～ 毎月2回	鹿児島高専	生徒・教職員・親への カウンセリング	鹿児島高専
3	山中 寛 服巻 豊 上原美穂	鹿児島動作法月例会	2012年4月 毎月1回(8月を除く)	鹿児島市民福祉プラザ	障害児・者およびその保護者に 対する心理援助	鹿児島動作法研究会
4	土岐篤史	南薩地区保育連合 職員研修会	2012年6月	南さつま市いにしへホール	講演「気になる子どもへの 理解と支援」	南薩地区保育連合
5	土岐篤史	鹿児島県自閉症協会講演	2012年6月	ハートピアかごしま	講演「発達障害の早期発見・ 支援の歩み」	鹿児島県自閉症協会
6	中原睦美	新人看護師研修	2012年7月	かごしま徳洲会病院	研修会「新しい環境にいか に 適応していくかー“関係性”の 視点からみたストレス対応」	かごしま徳洲会病院
7	土岐篤史	健康と安全研修会	2012年7月	アーバンポートホテル	講演「障害をもつ子どもの 保護者支援」	一般社団法人 鹿児島市保育園協会
8	土岐篤史	鹿児島精神病理研究会総会	2012年7月	ブルーウェーブイン鹿児島	講演「発達障害から考える発達」	鹿児島精神病理研究会
9	土岐篤史	第40回九州地区情緒障害 教育研究会鹿児島大会	2012年7月	黎明館講堂	講演「自閉症スペクトラムと 発達過程」	九州地区情緒障害 教育研究会
10	松木 繁	平成24年度ストレス マネジメント教育セミナー	2012年8月	西郷南洲館	ストレスマネジメント教育の 理論・技法及び実技研修	鹿児島市教育委員会
11	松木 繁	心の扉を開く家庭づくり講座	2012年8月	鹿児島勤労者交流センター	親子で楽しむストレスマネジメント	鹿児島地域青少年育成 推進協議会
12	松木 繁	教師が知っておきたい 子どもの自殺予防講演会	2012年8月	鹿屋市保健相談センター	学校における子どものストレスや悩 みへの対応について ー自殺予防の対応も含めてー	鹿屋市役所健康増進課

	教員名	活動名	年月	会場	内容	主催
13	土岐篤史	串木野養護学校 夏期公開セミナー	2012年8月	鹿児島県立 串木野養護学校	講演「思春期・青年期を中心 とした子どもの理解と支援」	鹿児島県立 串木野養護学校
14	上原美穂	平成24年度ストレス マネジメント教育セミナー	2012年8月	西郷南洲館	ストレスマネジメント教育の 理論・技法及び実技研修	鹿児島市教育委員会
15	松木 繁	平成23年度教育課題研修 指導者海外派遣プログラム	2012年10月	ニューヨーク州10か所	学校における心の健康教育と アンガーマネジメント	文部科学省・独立行政法人 教育研修センター
16	土岐篤史	沖縄県乳幼児健診 事後教室連絡会	2012年10月	沖縄県医師会館	講演「保護者の求める 発達支援とは」	沖縄県発達障害者 支援センター
17	上原美穂	介護職員能力向上セミナー	2012年10月	谷山サザンホール	ストレスマネジメントの理解と活用	(財)介護労働安定センター 鹿児島支部
18	松木 繁	平成24年度心の健康教室	2012年11月	鹿児島県庁4階大会議室	職場における 心の健康を考える	鹿児島県総務部
19	松木 繁	南薩地区養護教諭等研修会	2012年11月	南九州市市民交流センター ひまわり館	学校における危機管理と 緊急支援について ー子どもの心のケアを中心にー	南薩地区学校保健会・ 南薩地区養護教諭会
20	松木 繁	鹿児島市西部保健センター 研修会	2012年12月	鹿児島市西部保健センター 2F会議室	対人援助職のストレス マネジメントについて	鹿児島市保健管理局
21	土岐篤史	那覇市立・認可保育園 および幼稚園 障がい児担当保育士研修	2012年12月	那覇市療育センター	保育講座・事例検討会	那覇市役所こどもみらい部
22	上原美穂	介護職員能力向上セミナー	2013年1月	曾於市社会福祉協議会 末吉支所	研修「ストレスマネジメントの 理解と活用」	曾於市社会福祉協議会
24	土岐篤史	熊本市情緒障害教育研究会	2013年2月	熊本市桜の馬場城彩苑	講演「自閉症スペクトラムの 子ども達への発達支援」	熊本県情緒障害 教育研究会
25	中原睦美	教職員研修	2013年3月	ラ・サール学園研修室	研修会「生徒の問題行動の 背景にあるものー軽度発達 障害、虐待などの視点からー」	ラ・サール学園
26	中原睦美	臨床心理士研修	2013年3月	宮崎市民プラザ	講演「支援につなぐ 心理アセスメント」	宮崎県臨床心理士会

資料 2 各講演会(研修会)資料

南さつま市講演会配布資料

<p>HAS発達支援センター 親の会 講演会</p> <p>発達支援と子どもの育ち ～療育の大切さ～</p> <p>鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 地域支援プロジェクト</p> <p>土岐篤史</p> <p>1</p>	<p>発達とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間は一生を通じて、自らをつくりかえていく 子どもは、積極的に外界を取り入れ、「自分の血や肉」にしていく→発達 自分づくりの「主人公」は子ども 教育・保育→子どもたちにとって必要な外界の「質」や「大きさ」を整備すること <p>2</p>	<p>「弱い存在」としての発達</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達の主体になる ≠ 「強い個人になる」「できるようになる」 人間はひとりでは弱い存在…大切 おとなや仲間を求めて、交わりを通じて発達する 発達の道のりは、決してまっすぐではない 強くなり能力を身につけることも大切だが、発達の過程を味わい、人間としての中身をつくりあげていくことが大切 <p>心の発達 </p> <p>3</p>
<p>子どもの主体性</p> <ul style="list-style-type: none"> 外界、他者との心地良い接触 (慈しみを受ける:主体的に触れる、交わる) おとなからの微笑みかけ 相手を見つめ返す 自分からの微笑みかけ(主体的に微笑む) おとなの愛情を感じ取り、愛されている自分に気づく 瞳が輝く(主体的に見る) <p>4</p>	<p>発達の原動力</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物や人、そこで起こっている出来事に、「面白そうだ」「やってみたい」と積極的に心を働かせること 主体的に見る、微笑む、なめる、触れる、動く、扱う… 主体的に見る もう一つのものに視線を向けて見比べる 見比べて一方を選択する力 <p>5</p>	<p>発達のつながり</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ある能力は前の時期に獲得された能力が土台 ②同一時期に異なった機能同士が結びつく <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>①生後4ヶ月の見比べる力→様々な区別して認識する力 生後8ヶ月頃、「知っている/知っていない」:人見知り ②物事を弁別する「認知機能」と不安という「情動機能」の結びつき 一怖いけど見たい!</p> </div> <p>6</p>
<p>人とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 「したいけど、できない」という発達の矛盾 …本人の願い 伴う不快、不安、恐怖、劣等感、被害感 …本人のしんどさ、つらさ おとなが子どもの「願い」と「しんどさ」を受け止め、それが伝わった経緯「ワタシのことをわかってくれる人がいる!」 こうした思いの積み重ねが人への信頼感に 「人っていいな!」 「安全・安心の保障」 「課題の理解」 <p>7</p>	<p>「つもり」をもった自分</p> <ul style="list-style-type: none"> 生後10ヶ月:「される人」から「自分からする人」へ 意図(つもり)をもった自分 1)周囲の世界への関わりや認識の変化 違った形で、周囲の世界へ関心を向け続ける力 2)人と関わる力の変化 他者が何を行い、何を見て、何を思うかに関心 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>子どもはおとなを求めて、その姿にあこがれ自分も同じようになりたいと願い、おとなとの関係を通じて自分なりの「つもり」をつくる</p> </div> <p>8</p>	<p>乳幼児健診と早期発達支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診…子育て支援 支援者、専門家との顔つなぎ 支援すべき子どもの対象…25%(近藤直子) より専門的な発達支援…10%(90年調査2%、2000年調査4%) 発達障害と診断される子ども達もいるが、グレイゾーンの子も達も支援が必要 「気になる」赤ちゃんが年々増加している <p>9</p>
<p>発達障害とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 知的障害を除く、精神的な発達の障害を指す 世間的な重い「障害」のイメージは当てはまらない。「特異的な発達/発達アンバランス(発達凸凹)」と理解する 出生数の約10% 代表的な発達障害 自閉症スペクトラム障害(ASD) 注意欠陥多動性障害(ADHD) 学習障害(LD) <p>10</p>	<p>発達障害の子どもたち</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体能力や記憶能力が高くても… 1)不快や不安が大きく、安心感が育ちにいい 2)認知機能が情動機能に結びつきにくい 3)見比べ(意識)が起こりにくい 4)人への信頼感が育ちにいい 5)「つもり」が育ちにいい、興味・関心が広がりにいい 6)自己調整や修正の難しさ 7)独特な体験様式、心理的状況 →それぞれが、その子の「生きづらさ」「しんどさ」、あるいは、周囲から見た「わかりにくさ」に結びつく <p>11</p>	<p>障害をもっていったって「一緒」</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害をもつ子どもは、能力や機能のアンバランスによって、「自分の創り変え」がうまく進みにくい しかし、障害をもつ子どもも、発達の制約を乗り越えていこうとする点において、一般の子どもと変わりはない 教育・保育の役割は、子どもたちの発達の原動力が発揮されやすいような状態や環境を用意すること 大きな集団で大人が少ない保育よりも、「療育」の方がそうした環境を用意しやすい <p>12</p>

療育とは

- ・ 従来は「治療を目的とした教育」
- ・ 現在では「障害をもつ子どもへの発達支援」
- ・ 従来の対象は「中度～重度知的障害」や「肢体不自由児」
- ・ 現在の対象は「高機能自閉症、ADHD、学習障害など、知的障害をもたない発達障害」が多くなっている

→療育の目的は「子どもたちのユニークな育ちを支え、自己実現を図ること」

13

療育と訓練とは異なる

- ・ 「訓練」は、専門家主体で、発達の遅れを促進したり、歪み・偏りを治療・矯正し、正常に近づけることを目標にする。同化・分離・隔離
- ・ 「発達支援・療育」は、障害のある子が主体で、発達過程や機能特性に即した援助。その子らしく育つことを目標にする。統合(インクルージョン)と共生

「家庭生活・遊び・療育・保育・教育」が中心になり、特定の機能的訓練はあくまでも補助的

14

現代の発達支援(育ちの支援)

- ・ 障害研究と実践の進歩:発達精神医学、発達心理学の長足の進歩
- 例)自閉症のある子は機械的記憶力が得意で、意味理解が苦手→障害から違い(多様性)へ
- ・ 福祉思想・施策の進歩:1981年国際障害者年(完全参加と平等)→2011年障害者基本法改正(地域社会における共生、行政の療育義務)

15

療育と親支援

- ・ 育児の主体は親(保護者)、親が安心して育児に参加するための支援
- ・ 親は自分の子育てに自信を持ちにくい、子育てに余裕がない、子育てに関心を持ちにくい、子どもへのネガティブな評価は直接子育ての評価へ、障害をもつ子育てはエネルギーもいるし、孤独になりがち。批判も受けやすい
- ・ 親が子どもの特性や発達過程を理解し、安心と希望を持ちながら子育てできるよう

16

障害の診断について

- ・ 発達特性と発達過程を知る重要性
- ・ 医学的診断(障害名)+発達診断の両方が必要
- ・ 乳幼児期から治療が必要な例も少なくない(てんかん、睡眠障害、感覚過敏性など)
- ・ 診断説明は何かの宣告ではなく、子育てに有益な情報の提供である。十分な納得と安心感、少しの希望
- ・ 初診では障害の程度や発達の見通し、治療・療育の原則、当面の課題と関わり方などが充分伝えられる。再診は約2ヶ月後がよい

17

学童期以降

- ・ 幼児期の発達段階を踏む必要(1歳半、4歳、5歳後半)
- ・ 1歳半の課題:基本的対人関係、自我拡大、4歳の課題:二分的思考、復元力、自己調整、5歳後半:時間・空間・人間関係の把握と調整
- ・ 7歳より精神症状(不安、抑うつ、興奮、解離など)、9歳より関係の歪みが目立ってくることが多い? 小学校高学年には、共感的自己肯定感や障害に関する自己理解があることが望ましい


18

発達支援

- ・ 親支援の時代:虐待予防、親になるためのステップ、子育ての喜びとしんどさの共有
- ・ 敷居の低い発達支援のメリット:孤立する子育てを防ぐ、親仲間の経験
- ・ 発達支援と地域づくり:子育てニーズは地域のニーズ、喜びをつくりながら地域と結びつく、安心の子育て
- ・ 子どもを見る目を養う:変化する子育て、発達の基本を地域で学び合う

19

ご清聴ありがとうございました!



Thank You

20

伊佐市講演会配布資料

平成25年度就学予定児と
年中児のための研修会

子どもの発達から就学を考える

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科
土岐 篤史

1

発達とは

- 人間は一生を通じて、自らをつくりかえていく
- 子どもは、積極的に外界に働きかけ、その一部を取り入れ、「自分の血や肉」にしていく
- 自分づくりの「主人公」は子ども
- 教育・保育→子どもたちにとって必要な外界の「質」や「大きさ」を整備すること

2

子どもとは

- 大人は誰も子ども時代を経験している
- けれども、その時の経験や心の動きは忘れてしまっている
- 取り巻く環境も変化している
- 私たちは子どものことを知っているようでも、実は知らない
- 大人は過去→現在に生きている。経験を活かす毎日。子どもはただひたすら現在に生きている。毎日が期待と不安、未知との遭遇

3

人とのつながり

- 「したいけど、できない」という発達の矛盾
 - …本人の願い
- 伴う不快、不安、恐怖、劣等感、被害感
 - …本人のしんどさ、つらさ
- おとなが子どもの「願い」と「しんどさ」を受け止め、それが伝わった経験:「ワタシのことをわかってくれる人がいる!」
 - こうした思いの積み重ねが人への信頼感に「人っていいな!」「安全・安心の保障」「課題の理解」

4

難しい子育て

- 先進国共通の現象
- 身内が少ない、経験が乏しい、多くの物、子育ての多様化
 - 知恵の獲得、対人コミュニケーションの向上、社会経験の積み重ねが難しい
- 発達障害の増加(グレイの子ども達も)
- 子どもの自立、子どもの自己実現が難しい時代(保護者も??)

5

学校でつまづく子ども達

- 特定分野の知識が豊富
- 言葉を顔面通りに受け止めてしまう
- 抑揚のない話し方、会話が形式的
- 自分にしかわからないような造語を使う
- 共感性に乏しく、一方的
- 周りへの遠慮や配慮ができない
- 独特な目つきや態度
- 孤立を好む
- 日課や自分なりの手順にこだわる

6

続き

- 時間に間に合わせるができない
- 気持ちの切り替え、活動の切り替えが苦手
- 仲間と協力して物事を進めることができない
- 動作やジェスチャーが不器用、ぎこちない
- 細部にこだわり、感情を損ねやすい
- 特定の物事にこだわりやすい
- 苦手が多く、避ける活動が多い
- 興奮しやすい

7

こうした子ども達は・・・

やはり乳幼児期から「気になる」ことが多い

- 多動、落ち着きがない、迷子、高所好き
- 偏食、着る服のこだわり、特定の音をいやがる
- 泣き叫ぶことが多い/大人しすぎる
- 道順や配列にこだわる
- 丸い物、光る物が好き
- 数字やアルファベットなど記号に関心
- 横目、視線の合いにくさ、手をひらひら、つま先歩き、頻回のジャンプ、スイッチ、扉
- 1人遊びが多い
- 人見知りがない/強すぎる

8

発達障害とは

- 知的障害を除く、**個性的な発達の障害**を指す(発達障害者支援法、2006)
- 世間的な重たい「障害」のイメージは当てはまらない
- 「特異的な発達/発達アンバランス(発達凹凸)」、「発達の節目を乗り越えにくい」と理解する
- 出生数の約10%
- 代表的な発達障害
 - 自閉症スペクトラム障害(ASD)
 - 注意欠陥多動性障害(ADHD)
 - 学習障害(LD)

9

障害といっても

- 発達訓練(治療)
- 専門家主体
- 発達の遅れを促進、発達の歪みや偏りを治療・矯正
- 目的は正常化
- 全体ではなくパーツに注目した部分訓練
- 同化、分離・隔離

発達支援

- 障害のある子どもが主体
- 発達過程や機能特性に即した支援(発達の環境の整備)
- 目的は「そのらしい」育ち
- 統合、共生

10

発達支援の目的

- 発達支援=育ちの支援
- その目的:治療・訓練し順応させることが目的ではない
- その子らしいユニークな育ちを支え、自己実現を図ること
- 発達特性、発達過程、発達段階を踏まえた継続的支援を展開していくことが基本
- 支援は「何をしなければならないか」「今何をしなくてよいのか」を考えていく

11

学校という世界

- 一斉教育「みんなが同じことをする」
- 教科学習「文字が書ける、算数ができる・・・」
- 自己管理「自分のものは自分で管理」
- 自己表現「困ったら先生に書いていく」
- 家庭生活との切離
- ・・・幼・保よりも一段高いことを要求される
- ・・・移行時期に難しさが出る子ども達もいる

12

早期教育の問題

- 1970年代から、子どもの学力低下が指摘
- 1970年代後半から教育産業が活発化
学力低下は解消されない
生活的準備(前提・裏付け)がなければ、形式的な能力獲得に終わる
心のストレスの問題:ストレス耐性の低下・意欲低下

発達段階・生活年齢に応じた教育を

13

「分かる力」の大切さ

- 見かけ上「できても」、それは操作の力である場合が(例:足し算、九九)
- 「分かる」ためには、生活経験からの類推、認知的な力、イメージ(想像する)力が必要になる
土台の力「レディネス」
- 「話しことば」→「書きことば」
- 「感動・共感」
- 「技術」

14

現在の就学相談

- 現在は、子どもの育ちが多様化する中で、本人や保護者の教育に対するニーズが高まっている
- 地域の実情を踏まえた学校における支援体制づくりが求められている
- 子どもの発達状況に応じた教育的支援を行うことが、より一層大切になっている

15

学校の選び

- 学校生活を通して、お子さんにどんな力をつけてもらいたいですか？
- ご家族みんなで相談し、まとめてみましょう
- 一緒に通うきょうだいがいれば、その子たちの意見も聞いてみましょう
- また、これまでお子さんにかかわってきた園の先生や、専門家の意見も参考にしましょう
- 最終的に進路を決めるのはご家族です

16

生活面での基本

1. 体力
2. 生活リズム
3. 安定した食生活
4. 生活の流れ、日課がわかる
5. 活動の見通しを立てることができる
6. 力の加減ができる
7. 身の回りをきちんとできる
8. 周りに一定の注意が払える

17

1. 早寝早起き、決まった時間に寝起き
2. 自分で起きる
3. 朝食の習慣
4. 決まった時間の排泄
5. 身だしなみを整える
6. 日常のあいさつ
7. 交通事故に気を付ける
8. 鉛筆を正しくもつ
9. 正しい姿勢を取れる
10. ひとりで脱ぎ着できる
11. 脱いだ衣服をたたむ
12. ボタンをはずす、かける
13. ひも、リボンを結ぶ
14. ハンカチ、ちり紙を身につける

18

15. くつをきちんと履く、脱ぐ
16. 身体を洗える
17. 自分の持ち物を自分で管理できる
18. 使った物を机の中で整理する
19. 時間割を合わせる
20. 自分の名前を読み、書く
21. 10までの数がわかる
22. 左右がわかる
23. 返事ができる、簡単な敬語が使える
24. 自分の意思をことばにできる
25. 手を洗う、顔を洗う、歯を磨く、うがいをする
26. 食事の基本ができる
27. 食事中は集中できる
28. 決められた時間に食べ終える

19

29. ほうきを使う、ぞうきんをしぼる
30. 手足を使った運動をする
31. つめをきる
32. トイレをきれいに使う
33. 自分の身体の調子がわかる
34. だいたい時間がわかる
35. 人の話を聞く、静かにすべきとき静かにできる
36. 自分の物と他人の物を区別する
37. 公共の物を大切にできる
38. 善悪の判断がつく
39. 人の嫌がることをしない、言わない
40. 悪いことを認めて謝ることができる
41. 嫌なことでも我慢する
42. 自分の名前、住所、電話番号がいえる

20

適応上に問題が起こる場合

- ・自我成長が幼い:意欲、関心、自己調整の困難
- ・睡眠不足、疲労、ストレス
- ・「内言」の未発達
- ・基本的信頼感・安全感が弱い
- ・様々な過敏性の問題(聴覚、視覚、触覚、嗅覚など)

21

特殊教育から特別支援教育へ

明確な障害をもつ子どもに対して、障害の程度に応じて特別の場で指導を行うものが「特殊教育」

↓

一見障害とはわからない、普通クラスにいる「発達障害」をもつ子ども、被虐待児、病弱児を含めた教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」

22

特別支援教育の特色

- 対象範囲の拡大**
 - ・LD,ADHD,高機能自閉症
 - ・約6.3%(16人に1人)
- 柔軟で適切な支援**
 - ・「障害による枠」を外す
 - ・外部専門家との連携
- ライフステージに沿った一貫した支援**
 - ・自立や社会参加に向けて
 - ・長期的な支援計画

23

学校見学の勧め

- ・住んでいる地域や学校によって、さまざまな違いがあります
- ・校長先生や教頭先生、担任の先生など複数の先生とお話して、学校の体制や方針についてよく聞いて理解しておきましょう
- ・また、お子さんの現在の様子、受けたい支援などについて、具体的に伝えましょう
- ・園の先生からの詳しい情報は、今後かわかる先生方の役に立ちます

24

就学相談

- ・見学に行くことも迷う、まだ決めかねる、不安、心配...というときは、相談しましょう
- ・伊佐市教育委員会の相談、養護学校の発達相談、トータル・サポート・センターの相談が受けられるはず
- ・また、県教育センターの教育相談、県児童相談所などで発達評価や相談が行えます
- ・発達障害に関する診断・助言は、県総合療育センターで行えます


25

幼児期のまとめ

- ・幼児期のあいだに、「睡眠」「食事」「排泄」などの基本的な生活習慣をしっかりと身につけておきましょう
- ・朝気持ちよく目覚め、朝食をしっかり食べることは、元気に学校に行って、活動に集中して取り組むための基本です
- ・また、事前に学校の下見に行き、ランドセルをよって通学の練習をしてみましょう
- ・1学期は楽しく、安全に学校に行くことが目標です！

26

ご清聴ありがとうございました！



27

資料 3 各地域支援活動案内文

南さつま市講演会案内文

関係者各位

平成 24 年 5 月 24 日

講演会のご案内

HAS 発達支援センター
園長 松田 翠

平素からお世話になりまして、ありがとうございます。
さっそくですが、講演会のご案内をさせていただきます。
このたび、鹿児島大学大学院から土岐篤史先生をお招きし、「発達支援と子どもの育ち」について講演をして頂くことになりました。小学校、幼稚園、保育園の先生方、関係する機関の方々にもぜひ参加していただき、発達支援について共に考え、連携を深めていきたいと考えています。
つきましては、下記の通りのご案内を申し上げます。

記

<講師>

土岐篤史先生 鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科 准教授

<テーマ>

「発達障害と子どもの育ち～療育の大切さ～」

<日時>

平成 24 年 6 月 16 日（土）

13：30～15：00（受付 13：00～）

<場所>

金峰保健センター 2 階（中会議室）

<会費>

一般 500 円（資料代として）

※準備の都合上、6 月 8 日（土）までに返信をお願いします。

申し込み・連絡先：HAS 療育センター TEL/FAX 0993-77-2730

伊佐市講演会案内文(保護者向け)

広げよう 伊佐の子育てネット

平成25年度就学予定児と 年中児のための研修会

豊かな小学校生活を送るために、就学を迎える前に
保護者として、今できることを考えてみましょう！！

最近では就学してからの子どもの相談が増加しており、相談の内容も多様化しています。乳幼児期からの「気になるところ」を抱えたまま就学を迎え、学校生活の中で困っている児童もいます。「子どもには楽しく学校生活を送ってほしい」誰もが思う共通の願いです。

子どもの気になる行動や、言動はありませんか？
なんとなく育ちが気になることはありませんか。
もしかしたら、それは育ちのバランスの偏りからくる子どものSOSかもしれません。

今回の研修会は子どもの育ちをしっかりと知るために開催します。
ご自分の子どもの育ちをじっくり考える機会にし、子どもの願いや気持ち、そして思いに気づいてあげ、必要ならば、子どもたちが学校でよりよく生活できるような支援を就学前に整えてあげましょう。

記

講師：土岐 篤史 先生（児童精神科医師・臨床心理士）

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科 准教授

対象者：来年就学を迎える保護者 及び 子どもの育ちに関心のある保護者

（その他、保育士・幼稚園教諭・学校教諭・保健師・臨床心理士・SSW・特別支援教育支援員・学童クラブ指導員等）

期 日：平成24年8月18日（土） 13時00分～14時30分

場 所：大口元気こころ館 多目的ホール

受講料：無料

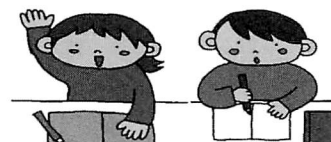
申込先：通園する保育園・幼稚園

期 限：平成24年8月10日（金）まで

主 催：伊佐市福祉事務所 たんぽぽ親の会

共 催：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

後 援：伊佐市教育委員会 読売新聞社（交渉中）



伊佐市講演会案内文(教育機関向け)

平成24年 7月23日

各幼・保・小・中学校(園)長 殿

伊佐市福祉事務所
所長 中馬 節郎

平成24年度就学予定児と年中児のための研修会について(依頼)

かねてより、伊佐市の福祉行政に御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、前年に引き続き、就学予定児の保護者に対して下記のように研修会を開催することになりました。

つきましては、保護者の方に、周知と参加勧奨をしていただくよう御願ひ申し上げます。

記

趣 旨： 近年、就学後の相談が増加しており、就学直後からの相談もある状況です。

子どもが豊かな学校生活を送るためには、就学前からの連携や、保護者の認識が必要となっております。そこで、今回、子どもが豊かな学校生活を送るために、保護者がしっかりと子どもの実態を見つめて、課題があるならば関係者と適切な共通理解をし、支援を共有することを目的とし研修会を開催します。

内 容：①発達についての研修会の開催。

②日を改めて必要に応じて相談会を開催する予定。

講 師：土岐 篤史 先生(児童精神科医師・臨床心理士)

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科 准教授

対象者：保護者(特に年中児・年長児をもつ保護者)

(その他、保育士・幼稚園教諭・学校教諭・保健師・臨床心理士・SSW・

特別支援教育支援員・学童クラブ指導員等)

日 時：平成24年8月18日(土) 13時00分～14時30分

場 所：大口元気こころ館 多目的ホール(予定)

主 催：伊佐市福祉事務所・たんぼぼ親の会

共 催：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

後 援：伊佐市教育委員会・読売新聞社(交渉中)

その他：近年、就学してからの発達相談も増加しています。保育園・幼稚園等におきましては、保護者が全員参加できるように積極的な勧奨と協力方をお願いいたします。

★必要な場合は、チラシを御活用ください。

【連絡先】

伊佐市福祉事務所 子育て支援係

電話：0995-23-1311

FAX：0995-22-5035

担当 満田・永田

資料 4 各地域支援活動に対するアンケート

南さつま市講演会アンケート(保護者用)

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 地域支援プロジェクト
HAS 発達支援センター 親の会主催
発達に関する講演会 アンケート

本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。

今後の支援活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
- お立場 保護者 その他 ()
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- 今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演内容は理解しやすいものでしたか。当てはまるものに○をつけてください。
とても理解できた 少し理解できた どちらでもない あまり理解できなかった 全く理解できなかった

- 全体を通して、今回の講演会はいかがでしたか。当てはまるものに○をつけてください。
(感想・要望などありましたら、自由にご記入ください)

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

- 今後、このような講演会があるとしたら、どのような内容を希望されますか。

[]

- 発達障がいをもつ子どもたちが地域でよりよく生活していくために、日頃専門家からどのような支援があるとよいと思いますか。自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。

南さつま市講演会アンケート(支援者用)

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 地域支援プロジェクト
HAS 発達支援センター 親の会主催
発達に関する講演会 アンケート

本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。

今後の支援活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ご職業 保健師 保育士 その他()
- 現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。()年
- 現在の主な業務はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

- 今回の講演内容は理解しやすいものでしたか。当てはまるものに○をつけてください。

とても理解できた 少し理解できた どちらでもない あまり理解できなかった 全く理解できなかった

- 全体を通して、今回の講演会はいかがでしたか。当てはまるものに○をつけてください。

(その他、感想・要望などありましたら、自由にご記入ください)

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

- 日々業務に当たられる中で、困難を感じていることや臨床心理士に対するニーズなどが
ありましたら自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。

伊佐市講演会アンケート

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 地域支援プロジェクト
平成 25 年度就学予定児と年中児のための研修会 アンケート

本日は講演会へのご参加、まことにありがとうございました。
今後の支援活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。
1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
○ 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
○ お立場 保護者 ・ 支援者 ・ その他 ()

この部分は、「支援者」とお答えいただいた方のみご記入ください。

☆ご職業：保健師 保育士 幼稚園教諭 学校教諭 医療関係（職種： ）
その他 ()

☆現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 () 年

☆現在の主な業務はどのようなことですか。

()

- **全員**：今回の講演会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

()

- **全員**：今回の講演内容は理解しやすいものでしたか。当てはまるものに○をつけてください。
とても理解できた 少し理解できた どちらでもない あまり理解できなかった 全く理解できなかった

- **全員**：全体を通して、今回の講演会はいかがでしたか。当てはまるものに○をつけてください。

(その他、感想・要望などありましたら、自由にご記入ください)

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

()

- **全員**: 今後、このような講演会があるとしたら、どのようなテーマを希望されますか。

()

- **保護者の方**: 発達障がいをもつ子どもたちが地域でよりよく生活していくために、日頃専門家からどのような支援があるとよいと思いますか。自由にご記入ください。

()

- **支援者の方**: 日々業務に当たられる中で、困難を感じていることや臨床心理士に対するニーズなどがありましたら自由にご記入ください。

()

- **全員**: 最後に、ご意見やご要望などありましたら、自由にご記入ください。

()

ご協力ありがとうございました。
ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。



就学相談事例検討会アンケート

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科地域支援プロジェクト

就学相談事例検討会 アンケート

本日は事例検討会へのご参加、まことにありがとうございました。

今後の支援活動をさらによいものにしていくために、アンケートを実施したいと思います。

1人1人の回答を問題にしたり、公表することはありませんので、ご協力をいただけたら幸いです。

- 性別 男性 女性
- 年代 20代 30代 40代 50代 60代以上
- ご職業 保育士 幼稚園教諭 保健師 学校教育関係者 臨床心理士
その他（ ）

現在のご職業に就かれてから、何年くらいになりますか。 （ ）年

現在の主な業務はどのようなことですか。

[]

今回の事例検討会に参加しようと思われた動機はどのようなことですか。

[]

8月に実施された就学に関する講演会にはされましたか。(はい ・ いいえ)

今回のようなネットワーク配信システムを利用した大学側とのディスカッションはいかがでしたか。
(ご感想・ご意見など自由にご記入ください)。

とてもよかった まあよかった どちらでもない あまりよくなかった よくなかった

[]

全体として今回の事例検討会はいかがでしたか(ご感想・ご要望など自由にご記入ください)。

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

日々お仕事をされている中で心理士に対するニーズなどがありましたら自由にご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

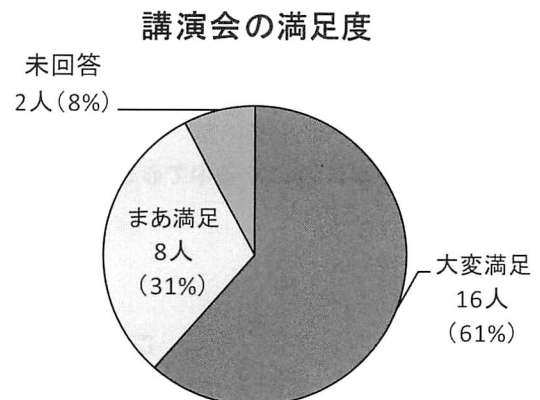
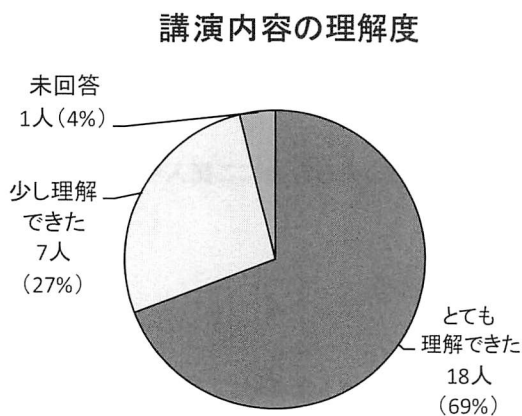
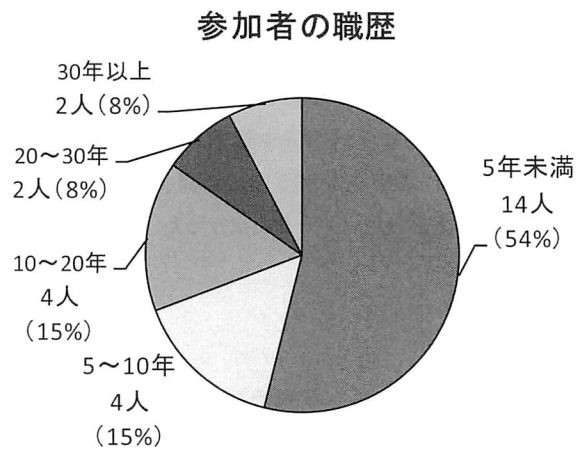
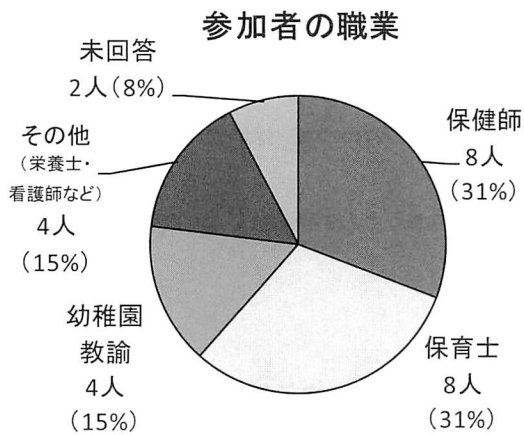
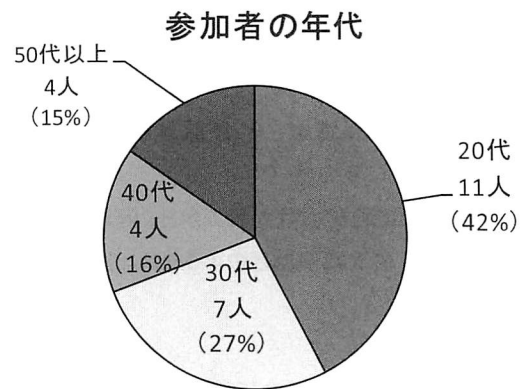
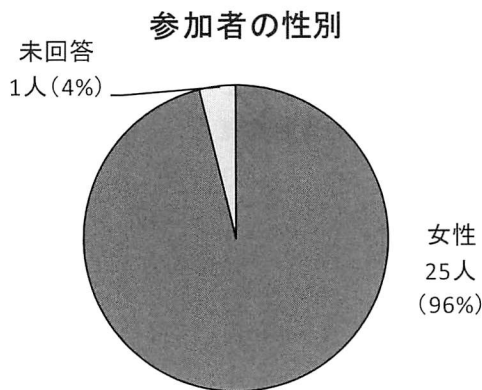
ご記入が終わりましたら、回収ボックスにお入れください。

資料5 各地域支援活動に対するアンケート結果

【南さつま市における支援活動について】

(アンケート回収率:60%)

【支援者】



○参加の動機

自己学習・研修のため
<ul style="list-style-type: none">・4月から母子担当になったので、発達や療育について学びたいと思ったから。・発達支援の大切さについて詳しく学びたかったから。
実際に支援が必要な子どもとの関わりがあるため
<ul style="list-style-type: none">・子どものことで悩んでいて話をききたかった。・クラスに気になる子がいたため。
講師が土岐先生だから
<ul style="list-style-type: none">・土岐先生のお話はいつ聞いてもためになるので。・土岐先生が講師をされるとお聞きしたので。
案内
<ul style="list-style-type: none">・保育園、HASからの紹介で。

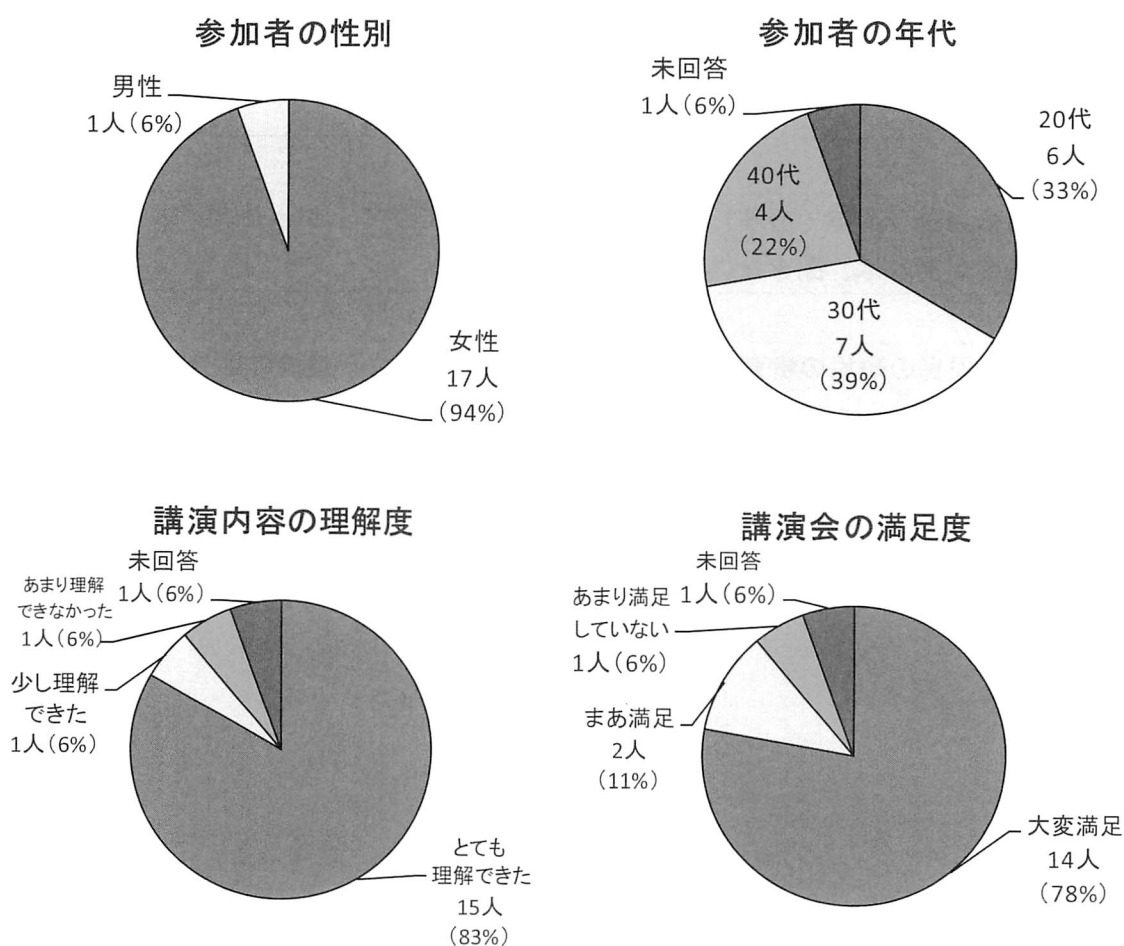
○講演会の感想

支援のあり方に対する気づきや理解の深まり
<ul style="list-style-type: none">・子どもの内面の育ちへ目を向けていくことを再認識した。・親支援の大切さや療育、子育てを支援する上で親との理解を深めることの大切さを改めて感じた。
充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・子どもの発達（身体・心理）のことを知ることができてよかった。・また機会があれば、聞きたい。
講演会に対する要望
<ul style="list-style-type: none">・もっと鹿児島県の現場の療育のことについて知りたかった。最後の部分をもっと詳しくお聞きしたかった。・もう少し時間があればよかった。しかし短い時間でわかりやすい話であり、勉強になった。

○臨床心理士に対するニーズ

保護者支援に対するコンサルテーション
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への発達支援について理解を深めてもらうにはどのようなことが必要なのか、どのように伝えていけばよいのか難しい。 ・ 気になる子についてどのように保護者の方に話していけばよいのかまたどのように支援にもっていけばよいのか・・・。
専門家・専門機関の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達を見立てられる心理士さんがいっぱいいらっしゃると変わってくると思う。 ・ 実際療育の場も足りない状況があると思う。療育の場がたくさんあるといいと思う。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健診にて、「気になりがある子」の感じ方がそれぞれの保健師で違ってくるため、まだまだ自分自身の気になりがはっきりしていないことが困難だと感じる。 ・ 一人の保育士がずっと支援する形で保育にあたったほうがいいのか、何人かの保育士が日替わりのような形で支援にあたったほうがいいのか悩んでいる。

【保護者】



○参加の動機

案内
<ul style="list-style-type: none">・ HAS で講演会があると聞いたから。・ 療育からのお知らせ
子ども理解を深めるため
<ul style="list-style-type: none">・ 子どもが HAS に通っていて親も学ばなければと思って。・ 子どもが HAS に通っており、子どものため、自分のためにも、他の人たちへも発達 の理解を深めたいから。
子どものことで困っていることがある
<ul style="list-style-type: none">・ 子どものことが気になるから。・ 小学校の息子のことで悩んでいるので。
講師が土岐先生だから
<ul style="list-style-type: none">・ (土岐先生に) 個別にお話いただいたとき、子どものことについて詳しく話してい ただき、接し方など参考になったため。・ 有名な先生の講演ということで。

○講演会の感想

<ul style="list-style-type: none">・ 二回目の講演会でしたが、まだまだ理解していないことが多いと思った。なかなか 聞く機会がなかったので、とても勉強になった。・ できれば夫婦参加したいので、日程を開催前月の中旬までに連絡を頂けるとありが たい。
--

○今後の講演会に希望するテーマ

<ul style="list-style-type: none">・ 日常の中ですぐに試せることだったり、具体的なやり方を教えてもらえるとうれし い(食事・遊び・しつけなどに対して)・ 年齢別により、より深く話をききたい・ 一人一人相談できるような形式(個別相談)・ 障害のグレーゾーンへの接し方・ 将来のこと
--

○地域の専門家に対するニーズ

地域への発達障害に関する情報の発信
<ul style="list-style-type: none">・ 発達障害の子どもたちへの多くの理解・ 行政にも理解してもらえるように働きかけてほしい。
子ども・保護者への具体的支援に関すること
<ul style="list-style-type: none">・ 接し方が分からないことがあるので、どう関わるかの支援・ 子どもの内面、カウンセリングなどを受けれるところ

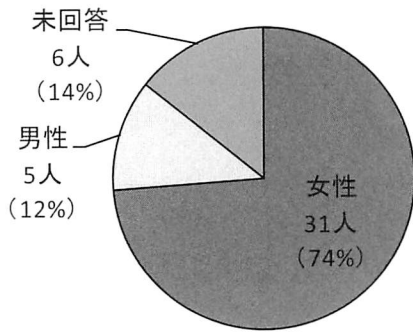
【伊佐市における支援活動(1):講演会】

第一部

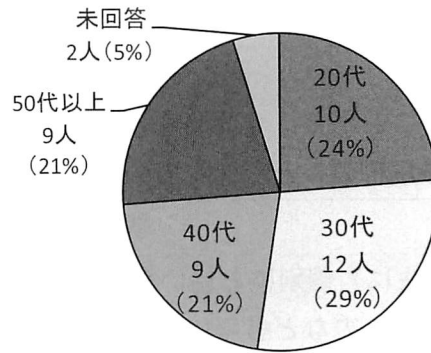
(アンケート回収率:支援者 65% 保護者 81%)

【支援者】

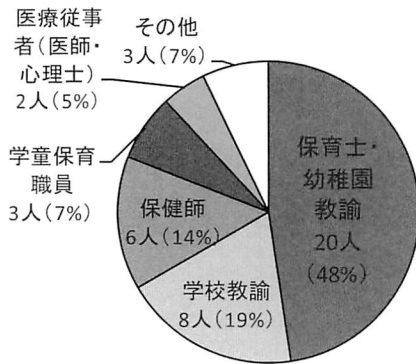
参加者の性別



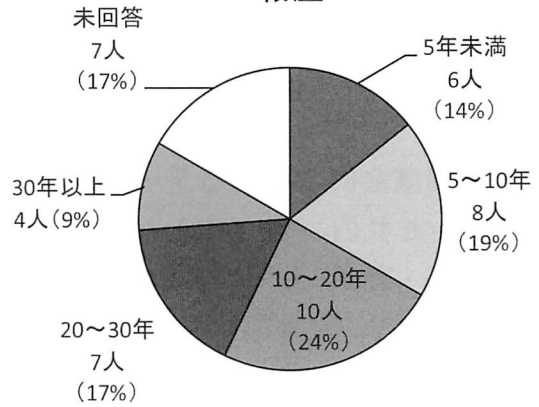
参加者の年代



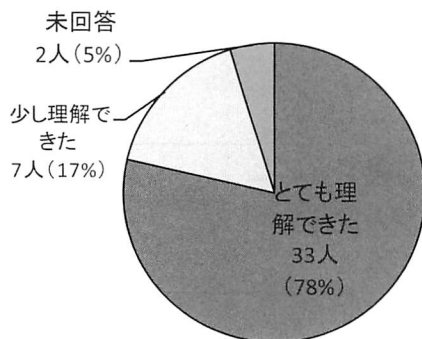
参加者の職業



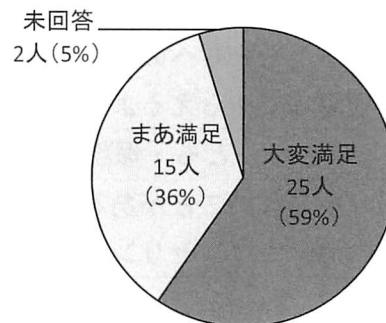
職歴



講演内容の理解度



講演会の満足度



○講演会参加の動機

自己学習・研修のため
<ul style="list-style-type: none">・就学前の子どもたちについてどのような準備をしておくべきか、そして発達の姿を知って今後の保育に役立てていきたいと思った。・就学についての相談を受けることがあり、勉強のため参加した。
対象児（年中・年長児）と実際に関わりがあるため
<ul style="list-style-type: none">・年中、年長組の担任をしていることもあり、話を聞きたかった。・年中、年長のクラスを受け持っているので、子どもの姿を知るのに、何か役立つのではと思ったため。
案内
<ul style="list-style-type: none">・チラシなどの案内と学校関係のよびかけ・親の会の方からの案内
講師が土岐先生だから
<ul style="list-style-type: none">・土岐先生の話聞いてみたいと思って。・土岐先生だったから

○講演会の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・心当たりがある子が多く、とても来てよかったなと思った。勉強になった。土岐先生のお話はわかりやすい。また機会があったら、是非参加したい。・小学生の子どもをもつ親でもありますので、とても勉強になった。
支援のあり方に対する気づきや理解の促進
<ul style="list-style-type: none">・「主人公は子ども」いろいろな問題が起こっていくうちに忘れていたように思う。・「その子らしい育ち」を見据えて支援をしていきたいと思った。
講演会に対する要望
<ul style="list-style-type: none">・欲を言えばより具体的な部分についても教えていただきたいかった。・もっと時間があったらいろいろ聞きたかった。また機会があったら、聞きたい。もっともって発達障害のことをあまり分かっていない人が多いと思う。私も聞いて、ちょっと勘違いしているところなどあった。もっと詳しく知りたい。

○講演会に希望するテーマ

子どもへの支援方法について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人が子どもへどのような言葉かけや支援をしていけばよいか、具体的な部分 ・ 就学後の心身の成長をサポートしていくために日常どのような関わり方が大切か。
保護者への支援方法について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者支援（気になる子の親への伝え方） ・ 保護者との関係づくり、コミュニケーションの方法について
子どもの発達や心理に関する基本的概論
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達と遊び ・ 思春期、不登校について
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の特別支援学級のことや養護学校のことを聞いてみたい。 ・ 難しいとは思いますが、事例をいくつか挙げて具体的な話が聞けたらと思う。

○臨床心理士に対するニーズ

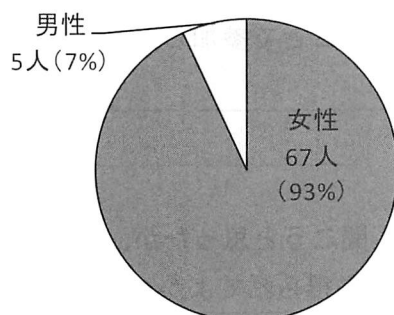
保護者支援・子ども支援に対するコンサルテーション
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの現状とこれからの課題を親と一緒に乗り越えるために親へどう伝えたらよいか戸惑っている。 ・ 保育園に通っていても一人の担任では、まわりの子どもとのトラブルなどで困ることが多いので、相談にのってほしい。
保護者への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものフォローだけでなく、保護者（特に母親）のフォローの重要性を感じるが、なかなかそこまで深くできないでいる。保護者のフォローを中心にしてほしい。 ・ 母親への精神的支援、診断前後の親のサポート
専門機関へのスムーズなつなぎ・連携の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に子どもの困り感を理解してもらい、専門相談につなげること。 ・ 気になる子をどう療育機関につなげていくか。 ・ 密接な連携がより必要と感じている。学校との橋渡し役。
専門家・専門機関の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・ 18歳からも伊佐市内で相談できる場所があればいい。 ・ 母子健診の中で、保健師だけではうまく発達について伝えられない場合がある。市の健診にも臨床心理士（子ども発達と親支援ができる）を配置してほしい。
子どもへの支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療（児相）、支援センターとつながらない児童の支援、またその子の進路保障 ・ 子どもの相談相手

○その他の意見・要望

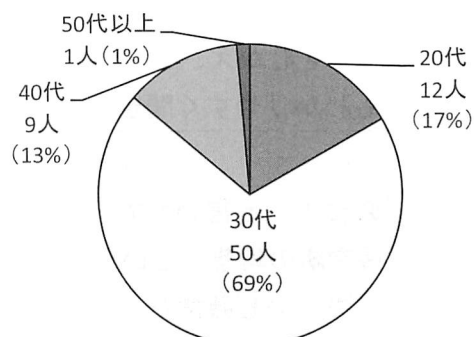
- ・今日は日にちも悪く、気になる子の親に限って来れていないのが、残念。平日の夜が确实だと思う。
- ・特別支援教育、学校、学級、通級指導教室の書面もいただけたらありがたい。
- ・学童保育の指導員としての勉強する機会があれば、と思う。

【保護者】

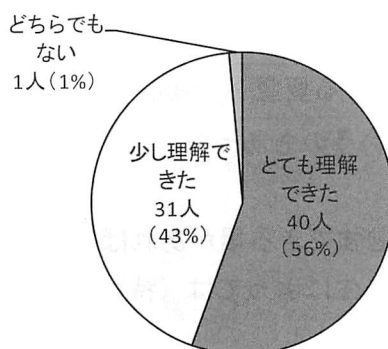
参加者の性別



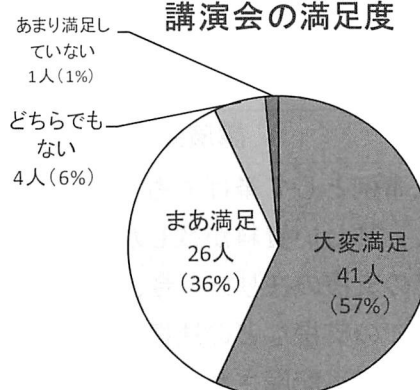
参加者の年代



講演内容の理解度



講演会の満足度



○講演会参加の動機

子どもが対象児（年中・年長）だから・就学に向けて
<ul style="list-style-type: none">・ 子供が年長で、就学前なので。・ 就学予定児をもつ保護者のため
子ども理解を深めるため
<ul style="list-style-type: none">・ 息子が自閉症スペクトルの診断を受けている。今後の参考になればと思い参加した。・ 子供の現在の状況と、就学について、知識を深めたかった。
案内
<ul style="list-style-type: none">・ たんぽぽ親の会で知り、学びたいと思った。・ 幼稚園から講演会の話聞き、参加しようと思った。
講師が土岐先生だから
<ul style="list-style-type: none">・ 土岐先生のお話を聞きたいので、参加させて頂こうと思った。・ 子どもが就学をむかえ、土岐先生のお話が聞けるとのことで参加した。以前聞いた時、とてもわかりやすく聞きやすかった。
その他
<ul style="list-style-type: none">・ 実母に「必要！」と言われて。・ 「特別支援学級の理想」という様な内容だと思い、聞こうと思ったが、就学にむけてだったので、少し残念だった。でも、新たな情報を得られてよかった。

○講演会の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・ 大変わかりやすい講演で、就学にむけて参考になった。・ おだやかで丁寧な話をされていてとても聞きやすく、子どもの発達の事など学ぶことがたくさんあって、出席してよかった。
講演会や普段の支援などに対する要望
<ul style="list-style-type: none">・ 具体的に事例として挙げてもらえるといいなあというのもあった。・ もう少し、詳しい資料が欲しかった。・ 就学先での支援の在り方（今、不十分なので）を勉強できる場があれば。療育を経ての学校での支援などの連携をどうにかしたい。先生によっては（特別、知識がなくても支援級へ配属されることがあるので）理解が乏しい。
子どもに対する理解の深化
<ul style="list-style-type: none">・ やはり人とのつながり、対人関係、自己コントロールの大切さが、幼児期からの育ちで、学校、社会に生きてくるのだなと思った。・ 自分の子供の数字、アルファベット好きのことが分かり、これも発達のことかと思い、少し子どもとのペースをつくっていきたいと思う。

○講演会に希望するテーマ

子どもへの対応の具体的な方法について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供との関わり方、叱り方、ほめ方 ・ 障害各々の特徴とそれに対して、具体的にどのように対応していくのがいいのか
子どもの発達や心理に関する基本的概論
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童期や発達など。学童期の二次障害など ・ 子供の心の発達
教育システムについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の特別支援学級の仕組み ・ 特別支援学級のあり方
子育て支援に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援に関する講演会 ・ 明るく楽しい子育て
体験談や具体的な事例を通しての学習
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達面で就学を悩み、どう決断していったのか、お母さん方の話も聞いてみたい。 ・ 就学相談での例を具体的に事例として挙げてもらえるとよい。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害かそれとも性格なのか？見分けるには？ ・ 学校生活をよりよく過ごすために

○地域の専門家に対するニーズ

子ども・保護者への具体的な支援に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に心理の先生や、専門の先生にみてもらおう。 ・ 専門家の方が直接療育の場へ顔を出して頂き、助言等を行って頂きたい。
地域への発達障害に関する情報の発信
<ul style="list-style-type: none"> ・ こんな学習会にいろんな地域の人（祖父母や他人など、先生など）が参加できると、知識を得る人も増える。 ・ 偏見をなくすために、地域への働きかけをしてもらいたい。
講演会・研修会
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者（親）も発達障がいについて、もっと勉強しないといけないので、勉強会などあればいいなあと思う。 ・ 講演会や、悩みのある保護者たちが集まり、悩みを出し合い、アドバイスをいただけるとありがたい。

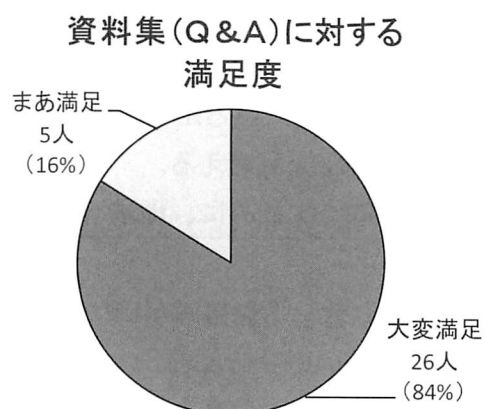
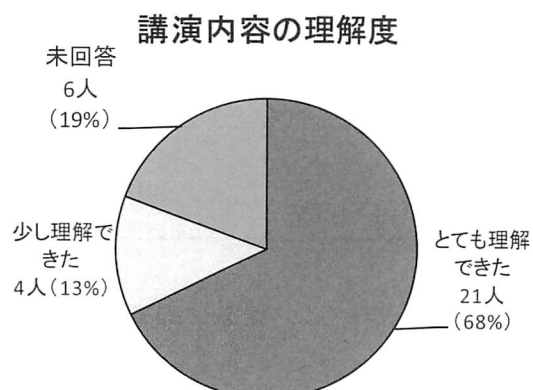
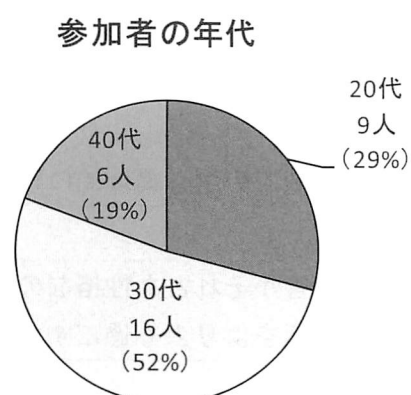
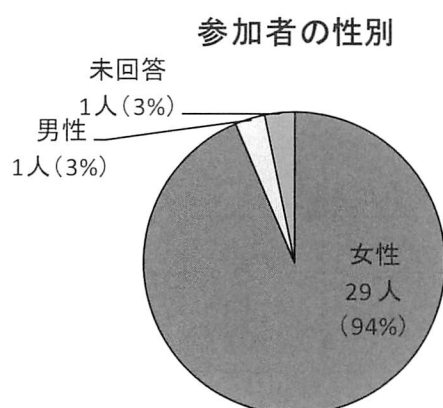
○その他の意見・要望

- ・ 検診等で気になる子への親に説明が少ない。親にも話してほしい。保育園等との連携だけのよう気がする。
- ・ 障害をもった子より、グレーの子が多いと思うのですが、その子どもたちに対して、学校側の取組みを教えて欲しい。テーマが漠然としている。

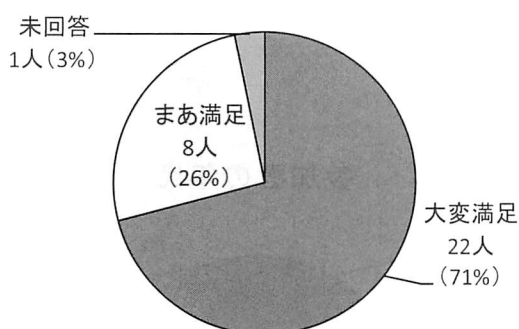
【伊佐市における支援活動(1): 講演会】

第二部: 親の会座談会

(アンケート回収率: 61%)



座談会に対する満足度



○資料集（Q & A）に対する感想・意見

内容に対する満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子供について困ったことなどの質問があった。回答がわかりやすくてためになった。 ・詳しく書いてあって、持って帰れるのがいい。知りたいことが知ることができた。
今後も資料を見返すことができる
<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすかったし、あとあとその場面になった時でも改めてみることができる。 ・普段は聞いてメモをとるが、家に帰るとよくわからないことがあるので、資料になっていると後でじっくり見ることができて良いと思う。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害を持つ親がどう発達障害の子を育て、これに対し悩み、どうやって対処すればいいのかなどのお話があれば参考になるのかもと思う。 ・もっと聞きたい。

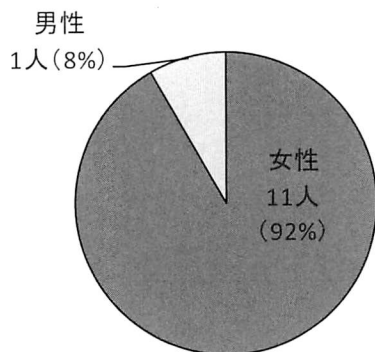
○座談会に対する感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・親身に話をしてもらって嬉しかった。 ・知っているようで知らない話もあって、とてもよかった。
子育てに対する前向きな気持ちの促進
<ul style="list-style-type: none"> ・マイナスに思えることでもプラスに捉えることで子どもの成長がさらに楽しみになった。 ・気になっていることがわかり、とても気持ちが楽になった。これからは役立て、子育てを頑張ろうと思う。

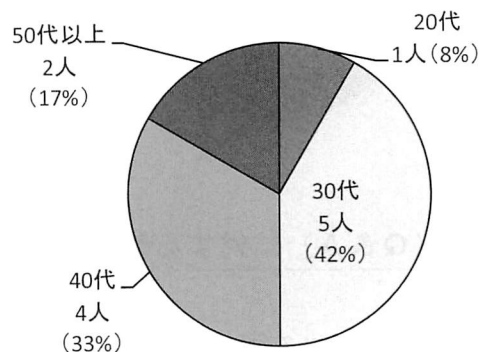
【伊佐市における支援活動(2):事例検討会】

(アンケート回収率:80%)

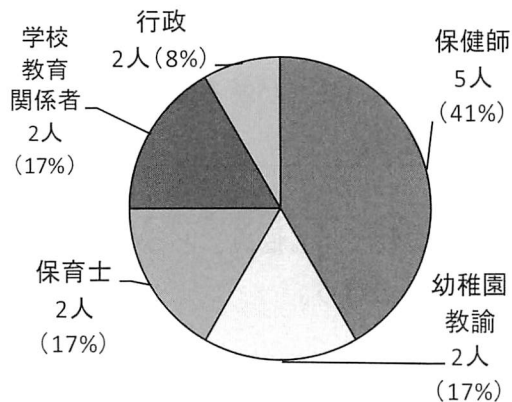
参加者の性別



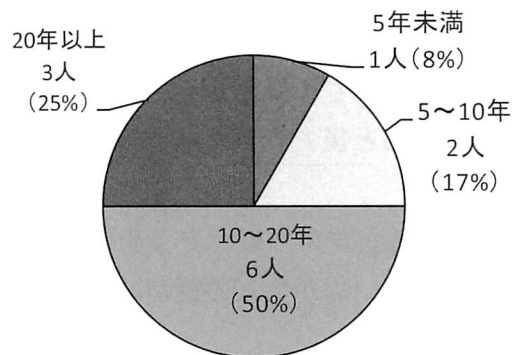
参加者の年代



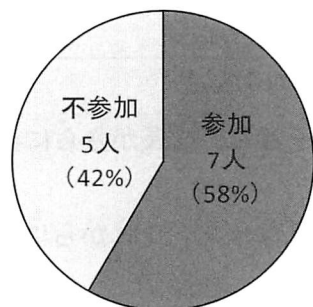
参加者の職業



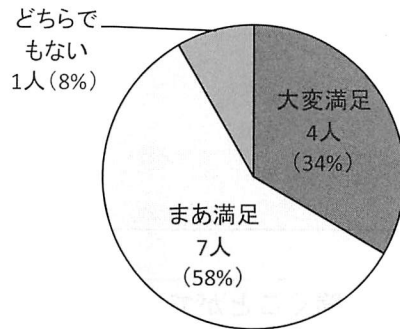
参加者の職歴



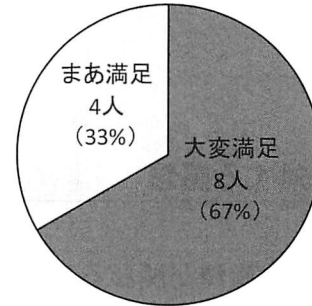
8月の講演会の参加の有無



MICTに対する満足度



事例検討会全体の満足度



○講演会参加の動機

対象児への理解を深めるため・自己学習
<ul style="list-style-type: none"> ・色々な立場の人が参加するので勉強になると思った。 ・児の就学をどう検討したらよいかと思っていたので。
案内
<ul style="list-style-type: none"> ・案内が届き、子どものよい就学のために学びたいと思ったので。 ・就学相談会の企画の中で話が出たため。

○事例検討会全体の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けての支援について、いろんな意見をもらったのでよかった。 ・本児のためにとっても皆さんと話し合えて本当によかったと思う。
事例検討会に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな立場から本児へのアプローチの仕方が聞かれ、また学校側の現状も伝えることができ、より適切な就学へつなげることができるものと期待される。 ・支援の在り方について関係者が集まって話をすると具体的に検討されてよい。
支援のあり方に対する気づき
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの支援の中身をもっと丁寧にしていく必要があると感じた。また、保護者へのフォローのあり方も考えたい。

○臨床心理士に対するニーズ

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・是非学校に来て、子どもたちの相談にのってほしい。いろんな子がいる。・これからも保育、教育現場とよりよい連携ができるとよい。 |
|---|

○OMICT に対する感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・いろいろな職種が関わることによるたくさんの視点を聞くことができた。・学生の意見がきけてよかった。
システムに対する要望
<ul style="list-style-type: none">・学生の画面もあるとよい。

資料 6 大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート

大学院生事後アンケート(南さつま市)

「臨床心理学的地域支援」に関するアンケート②

本日は、「臨床心理学的地域支援」への参加、おつかれさまでした。皆さんの意見を把握するために、アンケートを実施いたします。アンケート結果は公表に当たって、個人が特定されないよう配慮いたします。また、回答することによって不利益を被ることはありません。よろしく御協力ください。回答欄が足りない場合には裏面を御使用ください。

- 記入日 平成24年 月 日
- 氏名 ()
- 学年 1年 ・ 2年
- 参加した活動 ()

1. 大学などの相談室における「臨床心理学的アプローチ」と比較してみて、今回のような「臨床心理学的地域支援」はいかがでしたか。感想や意見など、自由に記述してください。

[]

2. 今回の参加で、「臨床心理学的地域支援」への興味・関心は高まりましたか。

とても高まった ・ 少し高まった ・ どちらでもない ・ あまり高まらない ・ 全くそう高まらない

3. 2. の回答について、そう思う理由を記述してください。

[]

4. 今回、「臨床心理学的地域支援」に参加してみて、「臨床心理学的地域支援」へのイメージは変化しましたか。変化した場合には、具体的に記述してください。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

[]

5. 今回、「臨床心理学的地域支援」に参加してみて、困ったことや難しいと感じたことがあれば、自由に記述してください。

()

6. 将来、「臨床心理学的地域支援」を行ってみたいと思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

7. 6. の回答について、そう思う理由を記述してください。

()

8. 臨床心理士として「臨床心理学的地域支援」を行う際、相談室などで行う「臨床心理学的アプローチ」と比較して、どのような知識やスキルが必要だと感じましたか。自由に記述してください。

()

9. 8. の知識やスキルは、現在のカリキュラムの中で、習得できると思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

10. 8. の回答について、そう思う理由を記述してください。

()

11. 8. の知識やスキルを、さらに習得するためには、どのような授業や実習が必要だと思いますか。

()

12. 実際に地域に出向く「臨床心理学的地域支援」に関する演習科目が開講されたら、受講したいと思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

13. 12. の回答について、そう思う理由を記述してください。

()

14. 大学などの相談室における「臨床心理学的アプローチ」と比較してみて、その他今回の活動について意見があれば、自由に記述してください。

()

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

5. 今回、「臨床心理学的地域支援」に参加してみて、困ったことや難しいと感じたことがあれば、自由に記述してください。

()

6. 将来、「臨床心理学的地域支援」を行ってみたいと思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

7. 6. の回答について、そう思う理由を記述してください。

()

8. 臨床心理士として「臨床心理学的地域支援」を行う際、相談室などで行う「臨床心理学的アプローチ」と比較して、どのような知識やスキルが必要だと感じましたか。自由に記述してください。

()

9. 8. の知識やスキルは、現在のカリキュラムの中で、習得できると思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

10. 8. の回答について、そう思う理由を記述してください。

()

11. 8. の知識やスキルを、さらに習得するためには、どのような授業や実習が必要だと思いますか。

()

12. 実際に地域に出向く「臨床心理学的地域支援」に関する演習科目が開講されたら、受講したいと思いますか。

とてもそう思う ・ 少しそう思う ・ どちらでもない ・ あまりそう思わない ・ 全くそう思わない

13. 12. の回答について、そう思う理由を記述してください。

()

14. 今回、初めての試みとして、親の会の方々から実際に挙げてきた声をもとに「お子さんとお母さんのためのQ&A」を作成しましたが、その作成過程に実際に関わってみていかがでしたか。感想や意見など自由に記述してください。

()

15. 大学などの相談室における「臨床心理学的アプローチ」と比較してみて、その他今回の活動について意見があれば、自由に記述してください。

()

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

事例検討会アンケート

平成 24 年 10 月 16 日

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科地域支援プロジェクト ネットワーク配信システムによる事例検討会に関するアンケート

今後、より実践的なカリキュラムづくりのため、今回の試みに対するアンケートを実施します。アンケート結果は、公表の際個人が特定されないよう配慮いたします。また、回答内容によって不利益を被ることはありませんので、ご協力ください。回答欄が足りない場合には裏面をご使用ください。

氏 名 _____

1. 今のあなたの気分についてお答えください。

1-1. 活気がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-2. 緊張している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-3. のどかである

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-4. そわそわしている

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-5. やる気に満ちている

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-6. 不安がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-7. 充実している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-8. 動揺している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

1-9. 平静である

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

2. これまで実際に幼児のアセスメント場面を見学したことはありますか。 (ある ・ ない)

*「ある」場合には、どのような場面で何回くらいありますか。具体的に記入してください。

[]

3. 実際に自分が幼児のアセスメントを行ったことはありますか。 (ある ・ ない)

*「ある」場合には、どのような場面で何回くらいありますか。具体的に記入してください。

[]

4. 実際に自分が幼児のアセスメントを自信がありますか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

5. 幼児のアセスメントに関する知識やスキルを、より身につけたいと思いますか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*「そう思う」場合には、どのような知識やスキルですか。具体的に記入してください。

[]

6. 幼児のアセスメントに関する知識やスキルは、現在のカリキュラムや環境の中で、習得できると思いますか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*6. の回答について、そのように思う理由を記述してください。

[]

事例検討会前の記入はここまでになります。残りは、事例検討会後に記入してください。

これから先は、講演会後にご記入ください。

7. 今のあなたの気分についてお答えください。

7-1. 活気がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-2. 緊張している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-3. のどかである

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-4. そわそわしている

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-5. やる気に満ちている

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-6. 不安がある

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-7. 充実している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-8. 動揺している

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

7-9. 平静である

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

8. 幼児のアセスメントに関する知識・スキルを得ることができましたか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*8. の回答について、そのように思う理由を記述してください。

[]

9. 実際に自分が幼児のアセスメントを自信がありますか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*9. の回答について、そのように思う理由を記述してください。

[]

10. ネットワーク配信システムを利用した地域の専門家とのディスカッションはどうでしたか。(感想・要望など自由に記入ください)

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

11. 今回の事例検討会(事前学習も含む)はいかがでしたか。(感想・要望など自由にご記入ください)

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

[]

以上になります。ご協力ありがとうございました。

事後学習会アンケート

平成 24 年 10 月 16 日

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科地域支援プロジェクト 臨床心理学的地域支援活動に関するアンケート

今後、より実践的なカリキュラムづくりのため、今回の試みに対するアンケートを実施します。アンケート結果は、公表の際個人が特定されないよう配慮いたします。また、回答内容によって不利益を被ることはありませんので、ご協力ください。回答欄が足りない場合には裏面をご使用ください。

氏 名 _____

1. 今回、実際に地域に出向き、幼児のアセスメント場面の見学および実施をしてみて、いかがでしたか。
感想や意見など、自由に記述してください。

()

2. 今回以外の場面で幼児のアセスメント場面を見学したことはありますか。 (ある ・ ない)

*「ある」場合には、どのような場面で何回くらいありますか。具体的に記入してください。

()

3. 実際に自分が幼児のアセスメントを行ったことはありますか。 (ある ・ ない)

*「ある」場合には、どのような場面で何回くらいありますか。具体的に記入してください。

()

4. 幼児のアセスメントに関する知識やスキルは、現在のカリキュラムや環境の中で、習得できると思いますか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*4. の回答について、そのように思う理由を記述してください。

()

5. 今回の活動を通して、幼児のアセスメントに関する知識・スキルを得ることができましたか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*5. の回答について、そのように思う理由を記述してください。

()

6. 実際に自分が幼児のアセスメントを自信がありますか。

とてもそう思う 少しそう思う どちらでもない あまりそう思わない 全くそう思わない

*6. の回答について、そのように思う理由を記述してください。

()

7. 今回の活動(事前学習・事後学習も含む)はいかがでしたか。感想や要望など自由に記入してください。

大変満足 まあ満足 どちらでもない あまり満足していない 満足していない

()

以上になります。ご協力ありがとうございました。

資料 7 大学院生を対象とした教育改革に向けてのアンケート結果

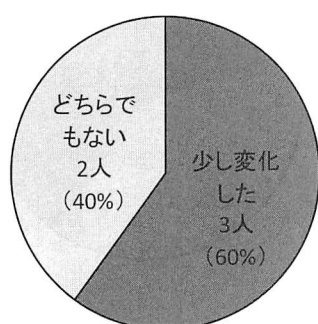
【南さつま市における支援活動】

1年生:1人, 2年生:4人

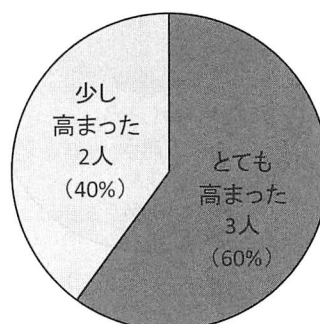
○活動に参加してみたの感想

地域のニーズの高さの実感
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多く、ニーズの高さを感じた。個人で相談室に出向くよりは参加しやすいのかもしれないと感じた。 ・保護者の方や保育士、支援センターのスタッフなど、日常的に接している方々の熱意、真剣さを感じることができた。
充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や支援者の方に向けてということで具体的な特徴や関わりなどが例として話されていて、とても勉強になった。 ・実際、地域での援助・支援というものを見て参加できたのはよかった。

「臨床心理学的地域支援」に対する
イメージの変化



活動参加を通じた「臨床心理学的地域支援」への興味・関心の増大



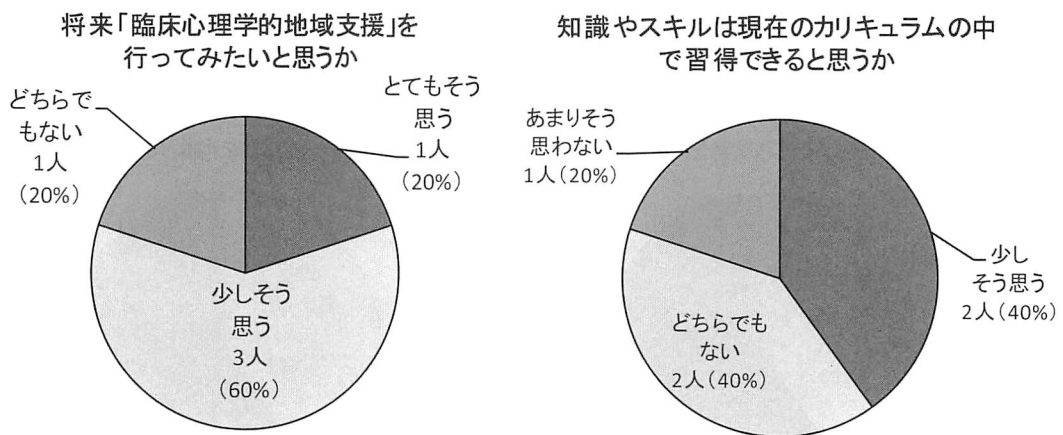
○「臨床心理学的地域支援」のイメージが変化した人の変化の具体的内容

幅広い対象者
<ul style="list-style-type: none"> ・対象（参加者）がもっと限定された方たちばかりだと思っていた。親の会、支援センターのスタッフ、保育士、小学校の先生と幅広かったことに驚いた。 ・地域支援は現場で働いていらっしゃる支援者の方への具体的な支援方法やかかわりについて行っているのだと思っていたが、今回保護者の方も多く参加されていてニーズがあるのだと感じた。

地域のニーズの高さ
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援は現場で働いていらっしゃる支援者の方への具体的な支援方法やかかわりについて行っているのだと思っていたが、今回保護者の方も多く参加されていてニーズがあるのだと感じた。 ・地域支援としての情報がいかに必要とされているかを感じたので。

○「臨床心理学的地域支援」への興味・関心が増大した理由

地域支援活動の意義の実感
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な立場として、しかし共同支援者として関わっていくことには意義があると思うから。 ・身近なところでこういった講演を聞くことができると保護者の方も参加しやすいし、子どものことを考えても安心だと思ったから。
地域のニーズの実感
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に参加してみると保護者の方や支援者の方は、このような機会を必要としているのだろうと感じたから。 ・質疑応答などを見て、情報などでの支援が必要とされているのかを感じたから。



○将来「臨床心理学的地域支援」を行ってみたいと思う人の理由

地域のニーズに応えるため
<ul style="list-style-type: none"> ・現場では本当に熱心に話をきいて、支援や実際に子どもに関わろうとする方が多くて、必要とされていると思ったから。 ・今後もニーズが高いたろうし、地域に知識や理解を広めることで地域の中で支え合う資源を増やすことができるように感じられたため。 ・生活の場での支援はより具体的でまさにクライアントの生きるための援助ができるのではないかと思ったから。地域を理解し、関わる人々に出会えることはクライアントの理解も深まる上に支援の幅が広がると思う。

○「臨床心理学的地域支援」を行う際に必要な知識やスキル

幅広い知見をもつこと
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と実際の症例や研究によってどのように言われているのか、など知っている必要があると感じた。 ・多くのケースを知り、共通している部分やそうでない部分を理解しておかなければいけないと思う。
集団に対して働きかける力
<ul style="list-style-type: none"> ・集団へアプローチする力 ・集団を見立てる力
相手に分かりやすく伝える力
<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく説明する力
地域を見立てる力
<ul style="list-style-type: none"> ・地域を見立てる力、ニーズを感じ取る力

○上記のような知識やスキルを現在のカリキュラムの中で習得できないと思う人の理由
(「どちらでもない」「あまりそう思わない」)

実践の場の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・知識や努力で何とかなると感じるが、実務経験が必要だと感じるので、実際に働くことが必要だと思うので、修了後すぐには難しいと感じている。 ・体験する場がない。講義ではコミュニティ心理学のみではないだろうか。

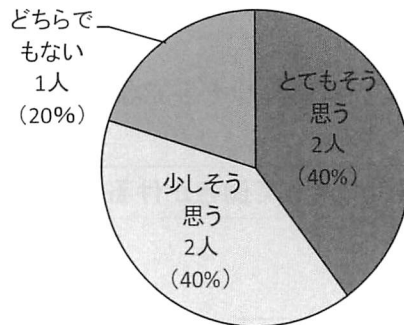
○上記のような知識やスキルを現在のカリキュラムの中で習得できると思う人の理由
(「少しそう思う」)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業によっては集団へのアプローチの仕方を学ぶことができるし、実習では集団に向けて発表する機会があるため。 ・自分のケースとして担当するのは難しいと思うが、カンファレンスなどで他の人のケースを知り学ぶことができると思うから。

○上記のような知識やスキルを習得するために必要な授業や実習の具体的な内容

<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスだけでなく、症例、事例、研究ができる授業。 ・他の地域支援の例も知る機会があったら面白いと思う。 ・実習だと継続的な関わりが必要だと思われる。集団に入り込む、理解するためには定期的にコミュニケーションをとることが必要だと思うが、現状でそのような実習が入るのは難しい、負担が大きいと思う。

授業が開講されたら受講したいか



○授業が開講されたときに受講したいと思う人の理由

貴重な経験の機会
<ul style="list-style-type: none"> ・今回参加して、心理職以外の方の姿勢や熱意に感動した。クライアントのためにも援助する方々に触れる機会があれば参加したいと思う。各々の専門職のスタンスや考え方を知る機会になると思う。 ・授業や実習とは異なる形での経験ができるから。
臨床現場に必要なスキルとして
<ul style="list-style-type: none"> ・興味もあるし、実際に現場で働くときにも生かせると思うから。

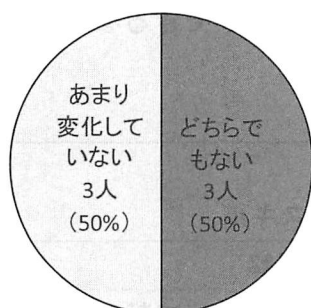
【伊佐市における支援活動(1):講演会】

1年生:3人, 2年生:3人

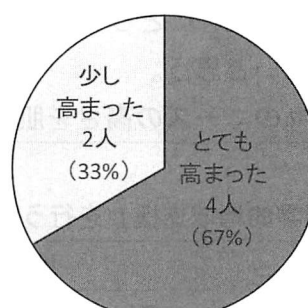
○活動に参加してみたの感想

地域の人々の実生活に直結した問題への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・相談室の面接においては、知識と目の前で起こっていることの理解を重点的に学ぶことができたが、臨床心理学的地域支援では、それらを踏まえたうえで実生活の場での困りごとや就学といった先のことにも意識を向けていく必要性を改めて考えさせられた。 ・相談室のアプローチと比べると、困りごとに直結した「こうしたらよいですよ」と言う具体的なアドバイスができて、解決に結びつきやすい支援だと感じた。
対象者が参加しやすい形の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・大学の相談室では相談・話を聞くには敷居が高く、なかなか参加しにくいイメージがあるが、「地域支援」では比較的参加しやすいのではないかと思う。 ・実際の地域での支援ということで対象が非常に広く、かつ「子育て」という身近な話題なので相談室に来るよりも参加しやすく、とてもよい支援だと感じる。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・Q&Aのお手伝いをさせていただき、勉強になった。ニーズの高さを改めて感じるとともに親の会の皆さんが主体的に動かれている様子に感動した。 ・地域支援につなげるための土台作りが必要だと感じた。クライアントの日常に関わる人たちにもっと目を向けるべきだと感じた。地域を黒子として支え、地域のエンパワーを促進することに魅力を感じた。

「臨床心理学的地域支援」に対する
イメージの変化



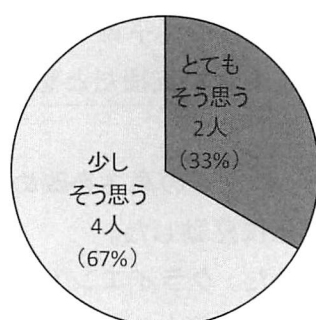
活動参加を通じた「臨床心理学的地域支援」への興味・関心の増大



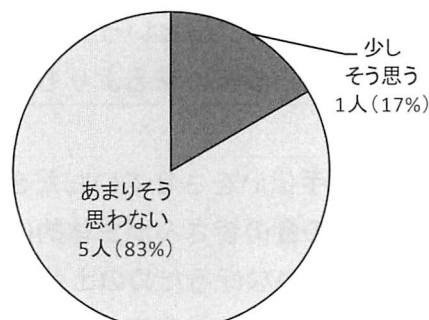
○「臨床心理学的地域支援」への興味・関心が増大した理由

地域支援活動の意義の実感
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学的地域支援という形でより身近でより広く支援ができていく部分を感じられたから。 ・Q&Aの準備に参加させていただき、親の会の方々に喜んでいただけたから。
地域のニーズの実感
<ul style="list-style-type: none"> ・面接の中においては、私はまだお子さんしか担当をしたことがなかったので、普段の生活で親御さんや施設の方々がどんな悩みを抱えていらっしゃるのかを知る機会となりとても勉強になったため。 ・地域の方々のニーズの高さを肌で実感したため。

将来「臨床心理学的地域支援」を行ってみたいと思うか



知識やスキルは現在のカリキュラムの中で習得できると思うか



○将来「臨床心理学的地域支援」を行ってみたいと思う人の理由

地域のニーズに応えるため
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援のニーズの高さを感じ、自分も将来少しでも力になればと感じたから。 ・親御さんや関係者にとってためになるものであるため、できるなら自分も行えるようになりたいと思う。 ・地域の方々のニーズの高さを肌で実感したため。

○「臨床心理学的地域支援」を行う際に必要な知識やスキル

地域の文化や特色の理解
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識をもっているのはもちろんのこと、生活の場で起こる困りごとの背景の理解や家庭や地域の文化、それぞれの施設の特徴を知りながら介入すること。 ・地域の文化などの特徴の理解

幅広い知見をもつこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療、教育、福祉など様々な分野における知識 ・ 相手に気づかせるだけでなく、有意義な情報を提供するための知識
相手に分かりやすく伝える力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者全体に向けたわかりやすい表現の力 ・ 伝えられる力、相手への伝え方

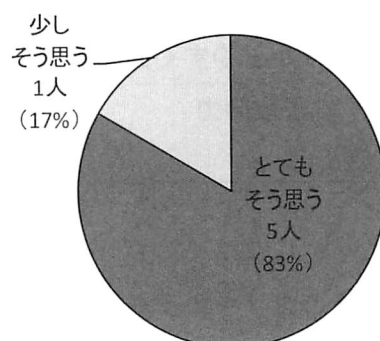
○上記のような知識やスキルを現在のカリキュラムの中で習得できないと思う人の理由
 (「あまりそう思わない」)

地域の状況や地域へのアプローチについて学ぶ場の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり地域の状況や集団に対するアプローチの方法について知る機会がないため。 ・ どちらかという個人の内面にアプローチする方法を学ぶ機会が多いので、困りごとと直結した情報や地域へのアプローチはあまり学ばないから。
実践の場の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・ 院生という立場もあるせいか実際に施設の方々や親御さんと触れ合う機会がなかなか得られないため。 ・ 地域に出向き、その地域を肌で感じ、人々の生の声を聴くことにより、よりニーズに応える形で方針を考え、支援につなげることができると思う。まずは地域に出向くことを必要だと思う。そのような機会を是非カリキュラムでも増やしてほしい。

○上記のような知識やスキルを習得するために必要な授業や実習の具体的内容

実践の場の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に地域に出向いたり、施設の方々や親御さんと触れ合える機会が得られる授業や実習 ・ 実践場面での実習
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな対象者を想定または実際に対象として有用なアプローチを考える。 ・ 地域との最初のつながりから学生がかかわる。 ・ コンサルテーションに関する授業

授業が開講されたら受講したいか



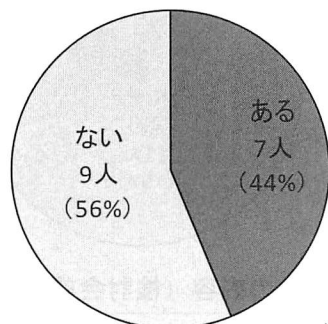
○授業が開講されたときに受講したいと思う人の理由

臨床現場に必要なスキルとして
<ul style="list-style-type: none">・実際に親御さんや施設の方々の声を聴いてそれに応えていくことは将来臨床心理士となったときに必要なスキルだと思うから。・将来実際自分が行っていく際の糧になると思うから。
貴重な経験の機会
<ul style="list-style-type: none">・貴重な機会であるし、力をつけられたらと思うから。・実際に地域に出向くことに意義がある。また学生同士で感じたことなどを共有することも重要だと思うため。

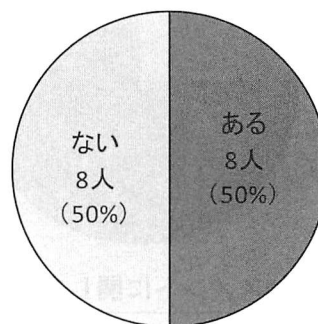
【伊佐市における支援活動(2):事例検討会】

①MICT を活用した事例検討会に参加した2年生(16人)へのアンケート結果

幼児のアセスメント場面の見学の有無



幼児のアセスメントの実施の有無



○幼児のアセスメント場面を見学したことがある人の場面と頻度(重複回答あり)

- ・大学院相談室: 3人
- ・外部実習先: 4人
- ・その他(幼稚園、療育機関など): 2人

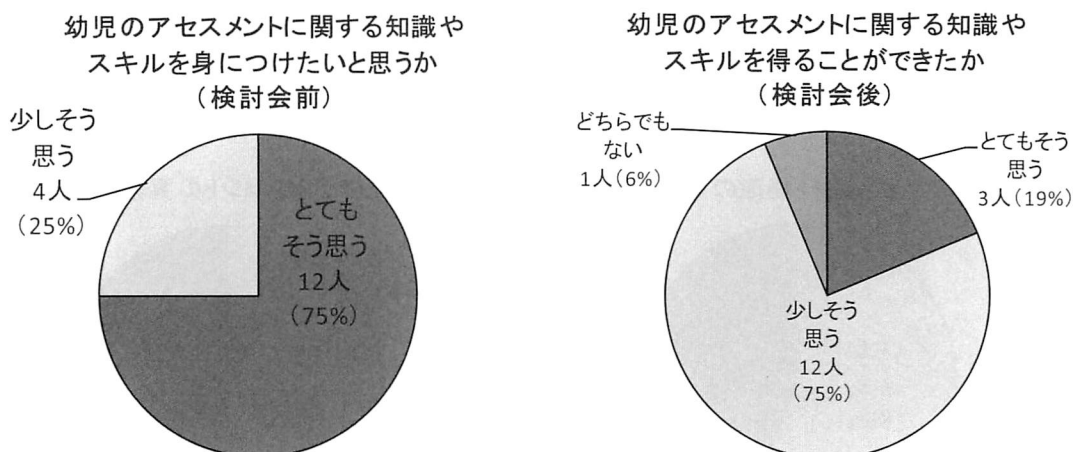
○幼児のアセスメントを実施したことがある人の場面と頻度(重複回答あり)

- ・大学院相談室: 3人
- ・外部実習先: 3人
- ・その他(療育機関、学部時の授業実習など): 3人

○気分に関する項目の平均の比較

	人数	検討会前		検討会后		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
活気	16	2.88	.89	3.63	.89	3.00**
緊張	16	2.88	1.02	2.69	.95	.64
のどか	16	2.56	.89	2.94	.68	1.57
そわそわ	16	3.00	.82	2.25	.77	3.00**
やる気	16	3.00	.82	3.56	.73	2.52*
不安	16	2.81	.91	2.44	1.03	1.31
充実	16	3.06	.77	3.94	.77	2.91*
動揺	16	2.38	1.02	2.19	.83	.68
平静	16	3.25	.86	3.38	.89	.38

(**= $p < .01$, *= $p < .05$)



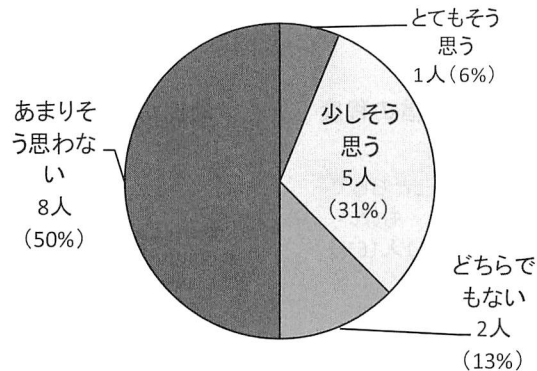
○幼児のアセスメントに関して身につけたい知識やスキルの内容 (検討会前)

発達に関する知識
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達、愛着、社会的養護の中での育ち ・ 生まれてから就学前までの発達の流れ
心理検査・発達検査の習熟
<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメント時に行う検査のスキル ・ その検査が子どものどんな力や側面を知るために作られているのか
行動観察の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般の子どもの発達を把握する上で、どのような言動がその指標となるのか ・ 子どもの行動（遊んでいる姿を含め）を発達的な視点で見えていく力。
支援に関する知識
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児に関わる周囲の方への具体的なアドバイスや指導ができるような支援のための必要スキル ・ その子に適した支援の在り方を適切に伝えられる知識

○事例検討会を通して幼児のアセスメントに対する知識やスキルを得ることができたと思う人の理由

様々な視点からのケース理解の促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんの多角的な視点を自分の視点と重ねながら深めることができたから。 ・ 実際に関わっている方のお話をきくことができ、違う見方、視点があることに気付いた。
リアリティの実感
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にお子さんの支援に当たられている方々から生の声を聴くことができたので。 ・ 日々様々な立場の先生のお話を伺いますが、今回は客観的な結果に基づき、現実的にどうやっていくのかを考えるものであったから。

知識やスキルを現在のカリキュラムの中で習得できると思うか



○現在のカリキュラムの中で幼児のアセスメントに関する知識やスキルが習得できると思う人の理由（「とてもそう思う」「少しそう思う」）

ケース・教員・カンファレンスを通して
<ul style="list-style-type: none"> ・先生方から具体的な幼児の様子などを聞き、参考になると思うから。 ・幼児に対するアセスメントはカンファレンスなどで学ぶことがほとんどのように感じるから。
地域支援プロジェクトを通して
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援プロジェクトに関わらせていただいたから。 ・（今回の試みは）実際に専門家が幼児と関わる場面をリアルタイムで観察することができ、さらにその場でどうアセスメントするかをディスカッションする機会だから。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・一通りの知識は習得できると思うが、実践場面でのスキルを身につけられるような学習ができたと思う。 ・知識やスキルはより実践的な体験によって身に付きやすいものだと感じるから。

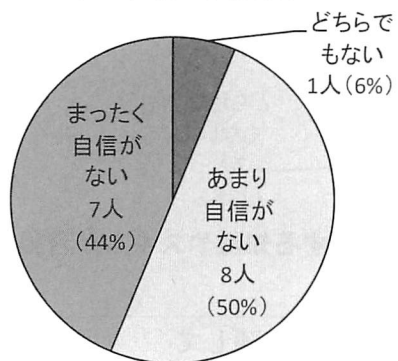
○現在のカリキュラムの中で幼児のアセスメントに関する知識やスキルが習得できないと思う人の理由（「あまりそう思わない」）

幼児と関わる機会の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児を対象とするアセスメント実習が少ないと思うから。 ・あまり幼児と関わる機会がない。
実践場面の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開講科目の中には関連しているものもあるが、技術習得、実技中心ではないので、実践に結びつけるのが難しい。 ・知識の面では学ぶ機会があっても実際に活かしてアセスメントする体験が少ない。

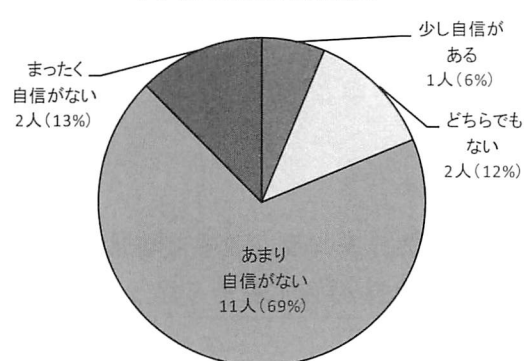
その他

- ・受け持つケースでも発達検査を実施する人とししない人が出てくる。

幼児のアセスメントに対する自信の程度
(事例検討会実施前)



幼児のアセスメントに対する自信の程度
(事例検討会実施後)



○幼児のアセスメントに対する自信がないと回答した人の理由

(「あまり自信がない」「まったく自信がない」)

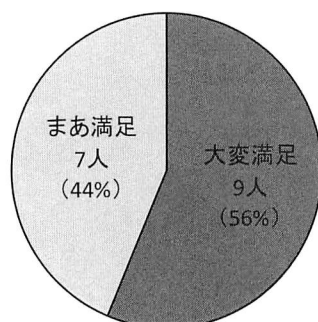
知識の不足・技術の未熟さ
<ul style="list-style-type: none"> ・偏った見方、一方向からの見方でしかまだまだできないなと思う。 ・アセスメントするには知識も必要で、私にはそれがないし、情報を得るためのスキルも足りないと思う。
経験不足・実践場面の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に幼児と関わる場面が必要であると思う。 ・やはり実際に数をこなしていかなないとなかなか身につかないものだと感じる。実際に様子をVTRで見ることでイメージはわくようになったと思う。

○事例検討会前後における幼児のアセスメントに対する自信の程度の変化

	人数	検討会前		検討会后		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
アセスメントに対する自信の程度	16	1.63	.62	2.13	.72	2.74*

(*= $p < .05$)

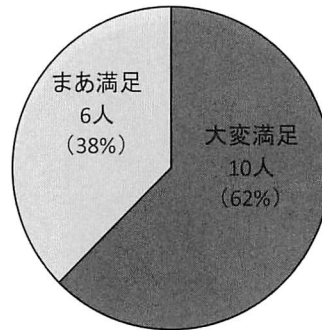
MICTに対する満足度



OMICT に対する感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・学校にいながら地域の専門家の方と意見のやりとりができ、勉強になった。 ・一人の児童に対してたくさんの大人が集まったの検討会に参加できてとてもよかった。
新たな視点の気づき・学び
<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントさんやその家族を支える場所がたくさんあるということを改めて意識する機会となった。また、支援方法は決して一つのものではないことも感じる事ができた。 ・自分の考えていた考え方以外にも様々な意見を聞くことができ刺激になったし、他機関の方の話も聴けて様々な支援方法について学ぶことができた。
リアリティの実感
<ul style="list-style-type: none"> ・やはり現場で実際に働いていらっしゃる方々の見方や考え方は現実を反映していて、とてもリアリズムを感じた。そのような考え方や見方を知れて、満足だった。 ・机上でのディスカッションに終わらず、現在されている支援など具体的なことについて学べた。とても勉強になった。
直接的なディスカッションの希望
<ul style="list-style-type: none"> ・旅費、会場などの問題はあるだろうが、やはり私は同じ会場でのディスカッションの方がいい。しかし、鹿児島のように離島や広い県では、このような方法でリアルタイムにディスカッションできることは今後必要なのかもしれないと思った。 ・直接お会いしてお話をさせていただけるのが理想ではあるかなと思う。

事例検討会全体の満足度



○事例検討会全体の感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な学習することができ、とても勉強になった。 ・検査の採点をしたり、ディスカッションをしたり、楽しく勉強させていただいた。
学習意欲の向上
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の今後勉強が必要な部分がより明確になった。もっと検査や発達を習熟したい。 ・実際の事例を扱わせていただき、また他職種の方々の意見を聞く機会がめったにないので、もっとたくさんそうした経験をしていきたいと思った。
事例に対する理解の深化
<ul style="list-style-type: none"> ・一人のお子さんのサポートにこんなに多くの方々に関わられている、すごく手厚いサポートがあってすごいと驚いた。学生と現場の先生とのA君理解の差はとても勉強になった。 ・検査をとってその結果からわかることやどう活かしていくのか、ということグループで話し合えたので、一人で考えるよりも考え方の幅が広がったように思った。

【伊佐市における支援活動(2):事例検討会】

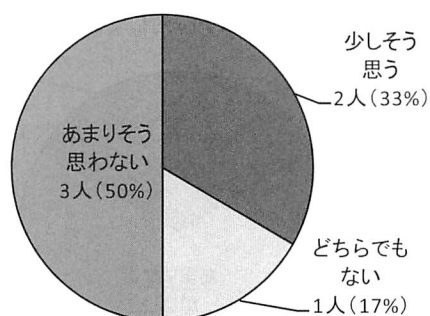
②地域支援活動のプロセスに参加した学生の事後アンケート結果

1年生:3人, 2年生:3人

○活動に参加してみたの感想

リアリティの実感
<ul style="list-style-type: none"> ・実際にアセスメント場面を見学、実施してみると親御さんがどんなことに困っているのかや子どもさんの特徴を鮮明に知ることができてよかった。 ・検査場面を実際に見て、検査の取り方や子どもとの関わり方など学ぶところが多くあった。
充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none"> ・実際の子どもへの関わり方や親御さんのニーズなどを学ぶことができたので非常に勉強になった。 ・検査をやってみてわかること学ぶことがたくさんあった。また、実際の相談の様子に陪席させていただいたことも貴重な体験だった。

知識やスキルは現在のカリキュラムの中で習得できると思うか



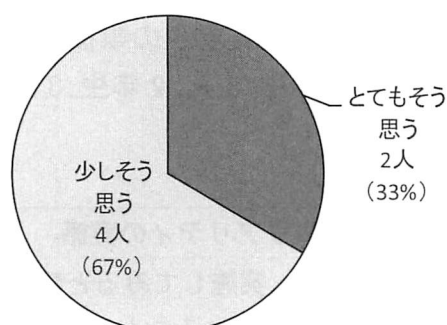
○幼児のアセスメントに関する知識やスキルが習得できないと思う人の理由

実践の場の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・ケース以外で知識やスキルを身につける機会はほとんどないから。 ・幼児を対象とするアセスメントの講義および実習が少ないから。

○幼児のアセスメントに関する知識やスキルが習得できると思う人の理由

<ul style="list-style-type: none"> ・環境は整っているから。 ・検査について講義を受けたり、ケースによっては幼児と関わるため。
--

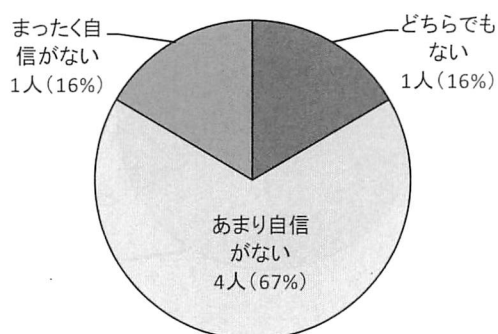
支援活動への参加を通して知識やスキルを習得できたか



○支援活動への参加を通して幼児のアセスメントに関する知識やスキルを習得できたと思う理由

アセスメント実践の機会の獲得
<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ自分のものにできていないが、事前事後学習もさせていただいたし、実際に検査をとったり、現場に出向く機会をいただいたため。 ・実際にアセスメントを行うことで、断片的な知識や少しずつ結びついてきたため。
アセスメント学習の機会の獲得
<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A集の作成に関わったり、検査の勉強などをさせてもらったので。 ・田中ビネーについて学び、発達段階を確認することができたため。

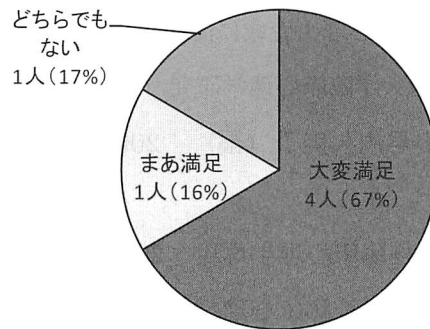
幼児のアセスメントに対して自信はあるか



○幼児のアセスメントに対して自信のない人の理由（「あまり自信がない」「まったく自信がない」）

知識不足・技術の未熟さ
<ul style="list-style-type: none"> ・発達の知識、スキルがないから。アセスメントの視点がわからない状態だから。 ・もっと勉強が必要だと感じるので。
経験不足・実践の場の不足
<ul style="list-style-type: none"> ・なかなかアセスメントを経験する機会がないため。 ・まだまだ経験が少ないため。

支援活動参加に対する満足度



○支援活動に対する感想

充実感・満足感
<ul style="list-style-type: none">・ 自主学習では学べない多くのことを学ばせていただいた。・ このような活動に参加する機会はとても貴重で普段学べないことを多く吸収できてとてもありがたかった。
学習意欲の向上
<ul style="list-style-type: none">・ 今後、もし機会があればもっと勉強して学びを深めたいと思う。・ 大変なこともあったが、経験を積むことが少しだけでもできたので、今後の臨床で活かしていきたい。

文 献

- 青木佐奈枝 2009 大学院における臨床心理士育成に関する一考察 - 大学院生, 修了生のアンケート調査をもとに - 東京成徳大学臨床心理学研究 第9号 12-20
- 藤土圭三・秋山幹男・中丸澄子・小早川久美子(編) 2003 地域に生きる心理臨床 北大路書房
- 北海道医療大学大学院心理科学研究科臨床心理学専攻 2010 平成19年~21年度 文部科学省「科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育」
- 國吉知子 2011 地域支援意識を高める臨床心理士養成プログラムの意義と評価 - 地域実践活動(アウトリーチ)を中心に - 神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室紀要 第12号 3-11
- 箕口雅博 2007 臨床心理地域援助特論 財団法人放送大学教育振興会
- 中田行重・串崎真志 2005 地域実践心理学 支えあいの臨床心理学に向けて ナカニシヤ出版
- 中田行重・串崎真志(編) 2006 地域実践心理学【実践編】 ナカニシヤ出版
- 日本臨床心理学会(編) 2009 地域臨床心理学 中央法規
- 九州大学人間環境学府実践臨床心理学専攻 2010 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」平成19年度~平成21年度 対人援助職を対象とした専門性を高めるためのスキルアッププログラム 委託業務成果報告書 九州大学
- 野島一彦 2007 現代のエスプリ別冊 臨床心理地域援助研究セミナー 至文堂
- 田島佐登史 2008 臨床心理士養成指定大学院の院生が考える終了後に役立つ学習と体験 目白大学心理学研究 第4号 35-48
- 山本和郎(編) 2001 臨床心理学的地域援助の展開 コミュニティ心理学の実践と今日的課題 培風館